



メマス、賀屋大藏大臣

〔左ノ送付文及法案ハ朗讀ヲ經サ

ルモ参照ノタメ茲ニ載錄ス以下之

二  
做  
フ  
レ

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因  
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和十三年三月十九日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿  
衆議院議長 小山 松壽  
(小字及――ハ衆議院ノ修正ナリ)  
支那事變特別稅法案  
支那事變特別稅法

第一條 當分ノ内本法ニ依リ所得税、法  
支那專屬特別稅法

人資本稅、砂糖消費稅及取引所稅ヲ増  
設ノ例古事記税、貢又上賣利二税、百

徵シ利益醸當稅、公債及社債利子稅、通  
行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ヲ課

ス

**第二條 所得稅中法人ノ普通所得及清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ臨時租稅**

## 増徴法第二條ノ規定ニ拘ラズ所得稅法

第二十一條ニ規定スル税率百分ノ五ヲ  
百分ノ十二・三・五

百分ノ十二・五、百分ノ十ヲ百分ノ二十

二、五口の税額の場合は、差地額に本官の  
ル税額ヲ増徴ス

所得稅中法人ノ超過所得ニ對スル所得

税率ニ付テノ同法第二十一條ニ規定スル  
税率ヲ以テ算出シタル稅額ノ百分ノ十  
ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

前二項ノ規定ニ依ル普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ノ增徵稅額ハ普通所得ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅額(所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ヲ含マズ)ト臨時利得稅額トノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

甲	國債ノ利子	利率年四分以
下ノモノ	百分ノ二	利率年四分ヲ
國債以外ノ公債ノ利子	百分ノ二・五	利率年四分五
厘以下ノモノ	百分ノ六・五	利率年四分五
厘ヲ超ユルモノ	百分ノ七・五	百分ノ七・五
社債ノ利子	百分ノ九・五	百分ノ九・五
ノ 其ノ他	百分ノ八	百分ノ八
乙	百分ノ十二・五	百分ノ十二・五
第五條 所得稅中第三種ノ所得ニ對スル所 得稅ニ付テハ所得稅額ノ 相當スル稅額ヲ增徵ス	百分ノ二十二・五 百分ノ二十五ニ	百分ノ二十二・五 百分ノ二十五ニ
前項ノ規定ニ依ル増徵稅額ハ第三種所 得ノ百分ノ五十五ニ相當スル金額ヨリ 第三種ノ所得ニ對スル所得稅額ヲ控除 シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ		
第六條 所得稅法第二十條ノ規定ニ拘ラ ズ第三種ノ所得ニ對スル所得稅額ヲ控除 六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除 得稅ヲ課ス		
前項ノ所得ハ所得稅法第十五條、第十 六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除		

ヲ爲シタル殘額ニ依リ、戸主及其ノ  
居家族ノ所得又ハ戸主ト別居スル二人  
以上ノ同居家族ノ所得ハ其ノ合算總額  
ニ依ル

前條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ課セ  
ラル所得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條 第三種ノ所得ニ付所得金額決定  
後翌年所得金額決定前ニ於テ營業ヲ法  
人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實  
際所得額ガ決定所得額ヲ超過スルトキ  
ハ其ノ超過額ハ之ヲ所得金額ノ決定ニ  
付脫漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於  
ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府  
ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ  
得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際所得  
額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要  
ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第八條 法人資本稅ニ付テハ法人資本稅  
法第八條第一項ニ規定スル稅率千分ノ  
一ヲ千分ノ一ニトシタル場合ノ差增  
額ニ相當スル稅額ヲ増徵ス

第九條 砂糖消費稅ハ砂糖消費稅法第三  
條及臨時租稅增徵法第十七條ノ規定ニ  
拘ラズ左ノ稅率ニ依ル

### 一 砂糖

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號  
未滿ノ砂糖

甲 檉入黑糖及檉入白下糖但シ分  
蜜シタルモノ、黒糖及白下糖以  
外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタル



回數五十回以  
下ナルトキ 前項稅額ノ十倍

回數五十回ヲ  
超ユルトキ 前項稅額ノ二十倍

定期乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於  
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

契約期間一月  
内ナルトキ 第一項稅額ノ五十倍

契約期間三月  
内ナルトキ 第一項稅額ノ二十倍

契約期間六月  
内ナルトキ 第一項稅額ノ二十倍

契約期間六月  
内ナルトキ 第一項稅額ノ三十倍

團體乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於  
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

人員百人以下  
ナルトキ 第一項稅額ノ五倍

人員二百人以  
下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍

人員二百人ヲ  
超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍

團體乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於  
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

人員百人以下  
ナルトキ 第一項稅額ノ三十倍

人員二百人以  
下ナルトキ 第一項稅額ノ二十倍

人員二百人ヲ  
超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍

人員二百人以  
下ナルトキ 第一項稅額ノ二十倍

十二歳未満ノ乗客ニ付テハ其ノ半額ト  
ス

第二十條 左ノ場合ニ於テハ通行稅ヲ課  
セズ

一 三等乗客ニシテ其ノ乗車船區間五  
十粍未満ナルトキ

二 陸海軍ノ團體トシテノ乗車船ニシ  
テ命令ノ定ムルモノナルトキ

二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルト  
キハ第十九條第一項及前條第一號ノ乘  
車船區間ノ粍程ノ計算ハ命令ヲ以テ之  
ヲ定ム

一 往復乗車船又ハ廻遊乗車船ノ契約  
ヲ爲シタルトキ

二 運賃ガ均一制又ハ區間制ニ依リ定  
メラレタルトキ

三 前二號ニ掲タルモノヲ除クノ外  
一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ  
命令ヲ以テ定ムルモノ

四 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物  
(相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニ  
シテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目  
的トスルモノヲ含ム)ヲ催ス場所

五 第二十二條 汽車、電車、乗合自動車又ハ  
汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三  
等ニ分タルモノニ付テハ第十九條第  
一項、第五項及第二十條第一號ノ等級  
ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム乗客定員數ノ定  
ナキ車船ニ付貸切乗車船ノ契約ヲ爲シ  
タル場合ニ於ケル第十九條第六項ノ乘  
客定員數ニ付亦同ジ

六 第二十三條 通行稅ハ汽車、電車、乗合自  
動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者  
(以下運輸業者ト稱ス)運賃領收ノ際之  
ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ

七 特別ノ事情アル運輸業者ニ付テハ前項  
ノ納期限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

八 第二十四條 汽車、電車、乗合自動車又ハ  
第一項乃至第三項ニ規定スル通行稅ハ

汽船ニ依ル運輸業ヲ營マンストスル者及  
運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣セン  
トスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ  
旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セ  
ントスルトキ亦同ジ

第二十五條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代  
リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定  
ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ  
帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船  
券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依  
リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府  
ニ申告スベシ

第二十六條 入場稅ハ左ニ掲タル第一種  
ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所  
ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

第一種

人一回二十三錢ニ満タザル場合ニハ入場  
稅ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回數、定期又ハ貸切ニテ  
入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適  
用セズ

第二十九條 第一種ノ催物(第一種ノ場  
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、  
競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ)若  
ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種  
ノ場所ノ經營者ガ命令ノ定ムル所ニ依  
リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事  
業其ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツ  
ル場合ニ於テハ入場稅ヲ免除ス

第三十條 入場稅ハ第一種ノ催物若ハ設  
備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場  
所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ  
翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ當時  
開設ニ非ザルモノニ付テハ命令ヲ以テ  
定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府  
ニ納ムベシ

第三十一條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開  
催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營  
セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ



口 葡萄酒（酒精及酒精含有飲料

稅法第三條ノニ規定スルモノ

以下同ジ）

一石ニ付

十五圓

ハ 其ノ他ノ酒類ニシテ酒精及酒  
精含有飲料稅法ノ適用ヲ受クル

モノ

一石ニ付

七圓

第四十條 前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ

付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ  
物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ

價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラル  
第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人

ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取  
ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及燐寸ノ本數ノ計算ニ關シ  
必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 物品稅ハ第一種ノ物品ニ付  
テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ  
小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物

品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル  
物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨリ  
之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラ  
ル物品ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合  
ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第四十二條 物品稅ハ第一種第十四號ニ  
掲グル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札ニ  
ノ他競争ノ方法ニ依リ賣買セラル場合  
合ニシテ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ

之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ  
準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品

ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十三條 製造場以外ノ場所ニ於テ販  
賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充填シ又ハ改裝  
スルトキハ之ヲ化粧品ノ製造ト看做ス

第四十四條 酒類ヲ製造場ヨリ移出シタ  
ルモノト看做ス

第四十五條 第一種ノ物品ノ小賣業者ハ  
毎月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名  
每ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、  
第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造  
場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名每  
ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、

第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造  
場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名每  
ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日  
迄ニ政府ニ提出スベシ

第四十六條 第一種、第二種又ハ第三種ノ  
物品稅地域ヨリ引取ル者ハ命令ヲ以テ定ムル  
場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前  
項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ  
申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ  
其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第四十七條 物品稅ハ毎月分ヲ翌月末日  
迄ニ納付スペシ但シ第四十一條但書ノ  
場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スペシ  
命令ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三  
種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔保  
ヲ提供シタルトキハ一月内物品稅ノ徵  
收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十八條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府  
ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ  
移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ  
又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種ノ物品  
又ハ燐寸ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ  
適用セズ

第四十九條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府  
ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保  
稅地域ヨリ移入シタル場合ニ於テハ命令  
ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨ  
リ移出スルモ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サ  
ズ

物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ移出シ  
タル第二種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻  
入シタル場合亦同ジ

第四十九條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府  
ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保  
稅地域ヨリ移入シタル場合ニ於テハ命令  
ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨ  
リ移出スルモ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サ  
ズ

第五十條 左ニ掲タル物品ニ付テハ命令  
ノ定ムル所ニ依リ物品稅ヲ免除ス

ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品稅ヲ免除  
ス

ノ物品ノ製造者又ハ販賣者へ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ  
第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ  
第五十三條 第十四條、第十七條、第二十  
三條、第三十條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ徵收スペキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十四條 収稅官吏ハ通行稅ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得  
收稅官吏ハ入場稅ニ付第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得  
前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス  
收稅官吏ハ入場稅ニ付第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得  
第五十五條 第十四條、第十七條、第二十  
三條、第三十條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ徵收スペキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十六條 許偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル者ニ付之ヲ准用ス  
第五十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
一 政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第一種ノ場所ヲ經營シタル者又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
二 第四十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠ス  
收稅官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
一 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品

ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第五十五條 許偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第五十六條 許偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル者ニ付之ヲ准用ス  
第五十九條 第五十五條及第五十六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十  
一條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第六十二條 政府ハ當分ノ内酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合中央會ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スペキコトヲ命ズルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ酒造組合中央會ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得  
第六十三條 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

附 則  
第六十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第六十五條 北支事件特別稅法ハ之ヲ廢止ス  
法人ノ昭和十三年三月三十日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得特別稅及臨時利得特別稅、昭和十三年三月三

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
一 第二十五條第一項、第三十二條第一項又ハ第五十二條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ許リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者トヲ得  
北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第一種ノ場所ノ入場者又ハ第二種ノ場所ノ設備利用者ニ對シ入場稅ノ課稅標準タル入場料ヲ標準トシテ地方稅ヲ課スルコトヲ得  
前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス  
第六十條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法中物品稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス  
第六十一條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ増額ト爲ル部分ノ第七條ノ規定ニ依リ増額ト爲ル部分ヲ含マズ又ハ本法ニ依リ課スル利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入

場稅、特別入場稅及物品稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル市町村ニ限リ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第六條ノ規定ニ依リ課スル所得稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得  
場所ノ設備利用者ニ對シ入場稅ノ課稅標準タル入場料ヲ標準トシテ地方稅ヲ課スルコトヲ得  
前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス  
第六十二條 政府ハ當分ノ内酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合中央會ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スペキコトヲ命ズルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ酒造組合中央會ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得  
第六十三條 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

十一日以前ニ販賣、製造場ヨリノ移出又ハ保稅地域ヨリノ引取ヲ爲シタル北支事件特別稅法第二十條ニ掲グル第一種又ハ第二種ノ物品ニ對スル物品特別稅其ノ他昭和十三年三月三十一日以前ニ於テ賦課シ若ハ賦課スペカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スペカリシ北支事件特別稅ニ關シテハ仍舊法ニ依ル。

前項ノ規定ニ依ル北支事件特別稅ノ收入ハ之ヲ臨時軍事費特別會計ノ歲入トス。

第六十六條 所得稅中第一種ノ所得稅ニ付テハ普通所得及超過所得ニ對スル所 得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分、清算所得ニ對スル所 得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第七條ノ規定ハ昭和十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス。

第六條ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ニ付額ヲ申告スベシ。

前項ノ場合ニ於テハ所得金額ノ申告ト 同時ニ所得稅法第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得。

法人ノ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所得稅及支拂期ノ昭和十三年四月一日以後

ニ在ル貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅ニ付テハ北支事件特別稅中ノ第二種所 得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ所 得稅法第二十一條第二項及第三項又ハ第二十二條第二項及第三項ノ規定ヲ適用ス。

第六十七條 法人資本稅ニ付テハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本法ヲ適用ス。

第六十八條 昭和十三年六月三十日迄ニ 製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラル砂 糖、糖蜜及糖水ノ消費稅ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ特別ノ徵收猶豫期間ヲ定ムルコトヲ得。

第六十九條 本法施行ノ際製造場又ハ保 稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ二萬 斤以上ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ同一人ガ二萬 斤以上ノ超ユル數量<sup>(2)</sup>ニ付。

ノ定ムル所ニ依リ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ。

前項ノ場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ同一人ガ二萬 斤以上ノ超ユル數量<sup>(2)</sup>ニ付。

ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス。

電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ。命令ノ定期ムルノト看做ス。

本法施行前ヨリ引續キ第二十六條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催者ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス。

本法施行前ヨリ引續キ第三十八條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品若ハ燐寸ノ製造ヲ爲ス者本法ニ依リ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス。

本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ。

ノ燐寸又ハ三十石以上ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ。

ノ燐寸又ハ三十石以上ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ。

ノ燐寸又ハ三十石以上ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ。

ル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ 物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ。命令ノ定期ムルノト看做ス。

前項ノ規定ハ同第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本法施行ノ際製造場又ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ。命令ノ定期ムルノト看做ス。

ノ燐寸又ハ三十石以上ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ。

ノ燐寸又ハ三十石以上ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ。

ノ燐寸又ハ三十石以上ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ。

ノ燐寸又ハ三十石以上ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ。



定ニ依リ當該贈與ニ付納付スヘキ相續

稅額ヨリ之ヲ控除ス

第十條ノ四 相續人アルコト分明ナラサ

ルトキ又ハ相續人力相續財產ニ付全ク

處分ノ權能ナキトキハ本法中相續人ニ

關スル規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク

ノ外之ヲ相續財產管理人又ハ遺言執行

者ニ適用ス

第十一條 相續人ハ相續開始ヲ知リタル

日ヨリ三月以内ニ相續稅ヲ課セラルハ

キ相續財產ノ目錄並ニ相續財產ノ價額

ニ加算セラルヘキ贈與ノ價額及相續財

產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ

明細書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ期間ハ遺言執行者又ハ相續財產

管理人ニ付テハ就職ノ日ヨリ三月トス

被相續人又ハ相續人力帝國內ニ住所ヲ

有セサルトキハ前二項ノ期間ハ六月トス

相續人確定シタルトキハ第一項ノ書類

ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日

ヨリ一月以内ニ相續人ノ相續關係ヲ記

載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十一條ノ二 納稅義務者本法施行地ニ

住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ前條ノ書

類ノ提出、納稅其ノ他相續稅ニ關スル

一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理

人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地

外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ

亦同シ

第十二條中「戸籍吏」ヲ「市町村長」ニ、「收稅官廳」ヲ「稅務署長」ニ改メ同條ニ左ノ

爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第十四條中「相續人、遺言執行者又ハ相

險（徵兵保險ヲ含ム以下同シ）ノ保險

金ヲ支拂ヒタル者ハ命令ノ定ムル所ニ

依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シ

テハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第十二條ノ三 稅務署長又ハ其ノ代理官

ハ調査上必要アルトキハ被相續人、納

稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又

ハ前條第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義

務アル者ニ質問スルコトヲ得

第十二條ノ四 稅務署長又ハ其ノ代理官

ハ調查上必要アルトキハ被相續人、納

稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者

ニ金錢若ハ物品ヲ支拂フ義務ヲ有スト

認ムル者ニ對シ又ハ被相續人、納稅義

務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ヨリ

金錢若ハ物品ノ支拂ヲ受クル權利ヲ有

スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價

額、支拂期日等ニ付質問スルコトヲ得

第十三條第二項中「相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人」ヲ「納稅義務者」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

本法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル

納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササ

ルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ

一 親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二 分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタ

ル後本家ノ戶主又ハ家族カ分家ノ

戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

不動產又ハ船舶ノ贈與ニ付登錄稅ヲ納

付シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ登錄稅額カ相續ニ因ル所有權ノ取

得ニ付テノ登錄稅額ヲ超過スル金額ヲ

前項ノ相續稅額ヨリ控除ス

第一項ノ規定ニ依リ相續稅ヲ課スル場

合ニ於テハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第十三條ノ二 信託ニ因リ委託者カ他

人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セ

シメタルトキハ左ニ掲タル時ニ於テ信

託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與シタル

モノト看做ス此ノ場合ニ於テ不動產又ハ

船舶ノ信託ニ因ル所有權取得ノ登記ハ

前條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ

贈與ニ因ル所有權取得ノ登記ト看做ス

一 元本ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セ

シメタルトキハ受益者カ其ノ元本ヲ

受ケタル時但シ數回ニシテ受クルト

キハ最初ニ其ノ一部ヲ受ケタル時

二 収益ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セ

シメタルトキハ受益者カ其ノ収益ヲ

受ケタル時但シ數回ニ之ヲ受クルト

キハ最初ニ其ノ一部ヲ受ケタル時

前項ノ場合ニ於テ受益者不特定ナルト

キ又ハ未タ存在セサルトキハ委託者又

ハ其ノ相續人ヲ受益者ト看做シ受益者

特定シ又ハ存在スルニ至リタル時ニ於

テ新ニ信託アリタルモノト看做ス

元本又ハ収益ノ受益者カ其ノ元本又ハ

収益ノ全部又ハ一部ヲ受クル迄ハ元本又

ハ収益ノ利益ヲ受クヘキ権利ハ委託者又

ハ其ノ相續人之ヲ有スルモノト看做ス

信託ノ利益ヲ受クル時ノ委託者ト受益

者トノ身分關係カ信託ノ時ノ身分關係

ト異ルトキハ其ノ身分關係ハ第一項ノ

規定ヲ適用スル場合ニ於テハ信託ノ利

益ヲ受クル時迄存續スルモノト看做ス

第二十三條ノ三 生命保険契約ニシテ保

險金受取人カ保険契約者以外ノ者ナル

トキハ保険事故ノ生シタル時ニ於テ保

險契約者カ保険金額ニ相當スル金額ヲ

保険金受取人ニ贈與シタルモノト看做

ス但シ保険契約者ノ同一ナル保険契約

ニ基ギ同一事故ニ因リ同一人ノ受取ル

保険金ノ合計額カ五千圓以上ノ場合ニ

限ル

前項ノ規定ハ第三條ノ三ノ規定ニ依リ

保険金ヲ相續財産ト看做ス場合ニ付テ

ハ之ヲ適用セス

保険契約者以外ノ者カ現實ニ保険料ノ

支拂ヲ爲スモノナルトキハ其ノ者ヲ保

險契約者ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用

スルコトヲ得

前條第四項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之

ヲ準用ス

第二十三條ノ四 郵便年金契約ニシテ年

金受取人カ年金契約者以外ノ者ナルト

キハ年金支拂ノ事由發生シタル時ニ於

テ年金契約者カ當該郵便年金ノ價額ニ

相當スル金額ヲ年金受取人ニ贈與シタ

ルモノト看做ス但シ年金契約者ノ同一

ナル年金契約ニ基キ同一事由ニ因リ同

一人ノ受取ル年金ノ價額ノ合計額カ五

千圓以上ノ場合ニ限ル

相当スル金額

第二十三條ノ二第四項及前條第三項ノ

規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條ノ五 死亡ニ因ル相續開始後

一年内ニ於テ相續人カ相續財産ニ付爲

シタル贈與ニ付テハ第二十三條ノ規定

ヲ適用セス但シ自己ノ直系卑屬ニ贈與

ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條ノ二 正當ノ事由ナクシテ第

十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ政府ニ

提出スヘキ支拂調書ヲ提出セス又ハ虛

偽ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シ

タル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ

對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付

第十二條ノ二第二項ノ規定ニ依ル金額

ヲ交付セス

第二十五條中「三十圓以下ノ罰

金又ヘ科料ヲ五百圓以下ノ罰金」ニ改ム

第二十七條 被相續人カ朝鮮、臺灣又ハ

樺太ニ住所ヲ有シ其ノ地ニ於ケル法令

ニ依リ相續税ヲ課セラルトキハ本法施

行地ニ相續財産アルモ相續税ヲ課セス

テ相續開始シタルトキハ第十條ノ規定ニ  
フ準用ス

第二十九條 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所  
ヲ有スル者カ本法施行地ニ在ル財產ニ  
付爲シタル贈與ニハ第二十三條ノ規定  
ヲ適用セス

第三十條 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ死  
亡ニ因リ相續開始シタル後一年内ニ本  
法施行地ニ住所ヲ有スル相續人カ相續  
財產ニ付爲シタル贈與ニ付テハ第二十  
三條ノ五ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行  
ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シ  
テハ仍從前ノ例ニ依ル

永代借地權ハ當分ノ内相續稅ノ課稅價格  
ニ算入セズ

臨時租稅增徵法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議  
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十九日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

臨時租稅增徵法中改正法律案

第五條中「第二種ヲ「第二種甲及乙」ニ改  
ム

クノ外同法第二十三條第一項ノ規定ニ  
拘ラズ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞  
次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ  
同法第十四條第一項第二號ノ所得ハ其  
ノ他ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五  
分シタル金額ニ對シ此ノ稅率ヲ適用シ  
テ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ  
以テ其ノ稅額トス

千二百圓以下ノ金額 百分ノ一  
千二百圓ヲ超ユル金額  
百分ノ二・五

二千圓ヲ超ユル金額 百分ノ五・五

三千圓ヲ超ユル金額 百分ノ七

五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ九

七千圓ヲ超ユル金額 百分ノ十一

一萬五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ十三

一萬五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ十六

三萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十二

五萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十五

七萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十八

十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十一

十五萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十四

二十萬圓ヲ超ユル金額  
百分ノ三十七

三十萬圓ヲ超ユル金額  
百分ノ四十

第六條 所得稅中第三種ノ所得ニ對スル  
所得稅ニ付テハ所得稅法第十四條第一  
項第一號ノ二ノ所得ニ對スルモノヲ除

## 五十萬圓ヲ超ユル金額

七十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ四十三

百分ノ四十六 百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ五十

第十條 相續稅ニ付テハ相續稅法第八條 第一項ノ規定ニ拘ラズ課稅價格ヲ左ノ

各級ニ區分シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次

ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督相續	稅	率
五千圓以下ノ金額	千分ノ六	相續人ガ被相續人ノ家族ナルトキ
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ七	相續人ガ被相續人ノ直系卑祖系卑者、被相續人ノ家族ナルトキ
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬又ハ入夫ナルトキ
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
六萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十五	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
八萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十五	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
九萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十五	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十五	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百四十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百四十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百六十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百六十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百六十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百六十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
一百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百四十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百二十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百二十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百二十	相續人ガ被相續人ノ直系尊屬者又ハ入夫ナルトキ

遺產相續	稅	率
千圓以下ノ金額	千分ノ十四	相續人ガ直系卑屬ナルトキ
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十三	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十五	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十五	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百二十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百四十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百六十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百八十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百八十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ一百九十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
一百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百三十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百五十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百五十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百八十	相續人ガ直系尊屬ナルトキ

## 附則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行

第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス

ス

所得稅法中改正法律案

本法施行前開始シタル相續ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也





免許ヲ受クヘシ但シ麥酒ヲ製造スル者

カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令

ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ

在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リ

テハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

麥酒販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販

賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府

ニ申告スヘシ

第十一條ノ二 第二條ノ二ニ違反シ免許

ヲ受ケヌシテ麥酒ノ販賣業ヲ爲シタル

者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條ノ三 第十五條乃至第十七條ニ

依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ二

年以上引續キ麥酒ヲ販賣セサル者ニ對シ

テハ政府ハ麥酒販賣業ノ免許ヲ取消ス

コトヲ得

前條第二項ハ前項ニ依リ免許ヲ取消サ

レタル者ニ付之ヲ準用ス

#### 附 則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行

ス

第三種ノ所得ニ付テハ昭和十三年分所得  
稅ヨリ本法ヲ適用ス

本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年

度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

外貨債特別稅法第十六條第一項、臨時利

得稅法第三十一條第一項及北支事件特別

稅法第十八條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所

ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

モノト看做ス

〔參照〕

大正九年法律第十二號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十九日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

大正九年法律第十二號中改正法律案

大正九年法律第十二號中左ノ通改正ス

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十三年三月十九日

衆議院議長 小山 松壽

第三條中「又ハ樺太」ヲ「樺太又ハ南洋群

島」ニ、「又ハ所得稅法施行地」ヲ「南洋

群島又ハ所得稅法施行地」ニ改ム

第三條ノ二乃至第七條中「又ハ樺太」ヲ

「樺太又ハ南洋群島」ニ改ム

第八條乃至第十條ヲ削ル

#### 附 則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行

ス

前項第一號及第二號ノ利得ハ各之ヲ甲

種利得及乙種利得ノ二種トス

第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ昭和

六年十二月三十一日以前三年内ニ終了

シタル事業年度ノ全部(甲既往事業年度

ト稱ス以下同ジ)ノ平均利益ヲ超過ス

ル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ甲種

利得トシ昭和十一年十二月三十一日以

前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部

(乙既往事業年度ト稱ス以下同ジ)ノ平

均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過

額ヲ法人ノ乙種利得トス

第四條ノ二 前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計

算スルニ當リ左ノ各號ノ一一該當スル

場合ニ於テハ各其ノ定ムル所ニ依リ平

均利益ヲ計算ス

一 甲既往事業年度又ハ乙既往事業年

度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對ス

ル割合ガ甲既往事業年度ニ在リテハ

年百分ノ七未満、乙既往事業年度ニ

在リテハ年百分ノ十未満ナルトキハ

甲既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對ス  
金額ニ對シ年百分ノ七、乙既往事業  
年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ  
年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル  
均利益トス

二 法人ノ第一次事業年度ガ昭和七年  
一月一日以後ニ於テ終了シタル場合  
ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年  
度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割  
合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既  
往事業年度ノ平均利益トシ第一次事  
業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ  
於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法  
人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ  
對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シ  
タル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平  
均利益トシ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ  
算出シタル金額ヲ以テ乙既往事業年  
度ノ平均利益トス

三 現事業年度ノ資本金額ガ甲既往事  
業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資  
本金額ニ對シ増減アルトキハ比較セ  
ラレタル既往事業年度ノ平均利益ノ  
平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業  
年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル  
金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均  
利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規  
定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度  
ノ資本金額ヲ以テ其ノ既往事業年度  
ノ平均資本金額ト看做ス

四 現事業年度ノ期間ガ甲既往事業年  
度ニ屬スル各事業年度又ハ乙既往事業事  
業年度ニ屬スル各事業年度ノ期間ト  
異ルトキハ既往ノ各事業年度ノ利益  
ハ現事業年度ノ月數ノ既往各事業年  
度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換  
算ス

第四條ノ三 法人ノ甲種利得ニシテ臨時  
利得税ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スル  
モノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利  
得ヨリ控除ス

第四條ノ四 法人ノ甲種利得又ハ乙種利  
得ノ金額千圓未滿ナルトキハ甲種利  
得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得税ヲ  
課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲  
シタル爲甲種利得ノ金額ガ年千圓未滿  
ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業  
年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム

第九條 個人ノ利益ガ昭和六年以前三年  
ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ  
超過額ヲ個人ノ甲種利得トシ昭和十一  
年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合  
ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ乙種利得ト  
ス

第九條ノ二 前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計  
算スル場合ニ於テ昭和六年以前三年ノ  
平均利益ガ三千圓未滿ナルトキハ三千  
圓、昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ  
五千圓未滿ナルトキハ五千圓ヲ以テ各  
其ノ平均利益トス

第九條ノ三 個人ノ甲種利得ニシテ臨時  
利得税ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スル  
モノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利  
得ヨリ控除ス

第九條ノ四 個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナ  
ルトキハ甲種利得ノ金額ヨリ一千圓ヲ、  
一萬五千圓未滿ナルトキハ乙種利得ノ  
金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

個人ノ利益ガ一萬圓以上ナル場合ニ於  
テ甲種利得ノ金額千圓未滿ナルトキ又  
ハ一萬五千圓以上ナル場合ニ於テ乙種  
利得ノ金額千圓未滿ナルトキハ甲種利  
得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得税ヲ  
課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲  
シタル爲甲種利得ノ金額ガ千圓未滿ト  
爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條ノ二 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續  
ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ命令  
ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益  
ヲ其ノ平均利益ト看做ス

個人ノ營業ノ時間ガ一年未滿ナル場合  
ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ命令  
ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 個人ノ利益ガ六千圓未滿ナル  
トキハ甲種利得ニ對スル、一萬圓未滿  
ナルトキハ乙種利得ニ對スル臨時利得  
稅ヲ課セズ

第十四條 法人ノ臨時利得税ハ左ノ稅率  
甲種利得 利得金額ノ百分ノ十  
第五條 法人ノ臨時利得税ハ昭和十三年四月一日ヨリ  
附則 第二項中「昭和十三年十二月三十一  
日ヲ含ム」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年十  
二月三十一日迄ニ終了スル」ニ、「昭和十  
三年分」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年分」  
ニ改ム

第一條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ  
附則 第一條 法人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和  
十三年一月一日以後ニ終了スル事業年  
度分ヨリ、個人ノ臨時利得税ニ付テハ  
昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第  
二十四條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨  
時利得税ヨリ之ヲ適用ス

第三條 臨時租稅增徵法第十九條ノ規定  
額決定後翌年利得金額決定前ニ於テ營  
業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營  
業ノ實際利得額が決定利得額ヲ超過ス  
ルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ利得金額ノ  
決定ニ付脱漏アリタルモト看做シ翌  
年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依  
リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スル  
コトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際利得  
額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要  
ノ經費ヲ控除シタル金額ニ基キ之ヲ計  
算ス

第十四條ノ二 個人ノ利得ニ付利得金  
額決定後翌年利得金額決定前ニ於テ營  
業ノ實際利得額が決定利得額ヲ超過ス  
ルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ利得金額ノ  
決定ニ付テハ第十四條ノ改正規定ニ拘ラ  
ズ甲種利得ニ對スル臨時利得税ノ稅率ニ  
付テハ之ヲ適用セズ

第四條 昭和十三年三月三十一日迄ニ終  
了シタル法人ノ各事業年度分ノ臨時利  
得税ニ付テハ第十四條ノ改正規定ニ拘ラ  
ズ甲種利得ニ對スル臨時利得税ノ稅率ニ  
付テハ之ヲ適用セズ



定後相續又ハ贈與ニ因リ減損シタル場合

合又ハ營業ノ純益ガ純益金額決定後營業繼續ニ因リ減損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ申請ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條 前條ノ場合ニ於テ營業ノ純益金額ガ當初決定額ニ比シ四分ノ一以上ノ減損ト爲ルトキハ其ノ實際純益額ニ基キ計算シタル營業収益稅額ニ付前條ノ規定ニ依ル輕減又ハ變更ヲ爲ス

第十六條 個人ノ營業収益稅ニ付純益金額決定後翌年純益金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシタル者ノ當該營業ノ實際純益額ガ決定純益額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヘ之ヲ純益金額ノ決定ニ付脱漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スル

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際純益額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第十七條 第十四條第一項ノ申請アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十八條 昭和十三年一月一日以後鑛區ノ合併、分割又ハ分合ニ依ラズシテ設定セラレタル採掘權ニ基キ其ノ鑛區ヨリ產出シタル鑛物ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノニハ鑛產稅又ハ特別鑛產稅

ヲ課セズ

第十九條 命令ヲ以テ指定スル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ毎年ノ產出數量ガ昭和十二年中ニ於ケル產出數量ヲ超過シタル鑛業ノ鑛業權者ニハ其ノ超過部分(鑛

物及鑛產物ノ產出數量ガ何レモ超過シタルトキハ其ノ超過割合ノ大ナル一方

ノ超過部分)ニ付鑛產稅又ハ特別鑛產稅ヲ免除ス

自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ

於テ其ノ取得鑛物ヨリ算出シタル鑛產物ノ數量ハ前項ノ鑛產物ノ產出數量ニ

ガ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ヲ超過スルトキハ其ノ超過部分ノ鑛物ヨリ產

出スル鑛產物ノ數量ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十二年以後鑛業ノ全部又ハ一部ノ繼續アリタル場合ニ於テハ當該部分ヨリ昭和十二年中ニ產出シタル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ昭和十二年中ノ鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ產出數量ニ加算シ被繼續者ノ昭和十二年中ノ

鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ產出數量ヨリ除算シ第一項ノ超過部分ヲ計算ス

前項ノ繼續アリタル場合ニ於テハ被繼

ノ合併、分割又ハ分合ニ依ラズシテ設定セラレタル採掘權ニ基キ其ノ鑛區ヨリ產出シタル鑛物ニシテ命令ヲ以テ指

定スルモノニハ鑛產稅又ハ特別鑛產稅

之ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 本法施行前消費稅ヲ納付シテ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

シタル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ其ノ年ニ於ケル鑛物又ハ鑛

產物ノ產出數量ト看做ス

第二十條 砂金以外ノ砂鑛ノ採取ヲ目的トルスル砂鑛權者ニハ左ノ稅率ニ依リ毎年特別砂鑛區稅ヲ課ス	河床ニ非ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢
第二十六條 鑛產稅及特別鑛產稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス	河床 一町毎ニ 金三十錢
第二十七條 昭和十三年分ノ特別砂鑛區稅ニ付テハ昭和十三年四月以後ノ月割ヲ以テ其ノ稅額ヲ計算シ同年五月三十日迄ニ之ヲ納付セシム	河床ニ非ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢
第二十八條 左ニ掲タル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル	河床ニ非ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢
第二十九條 本法施行前消費稅ヲ納付シテ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ	河床ニ非ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢

第二十五條 田畠地租ニ付テハ昭和十三年分ヨリ、營業収益稅中法人ノ營業収益稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分、個人ノ營業収益稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ昭和十二年分營業収益稅ヨリ之ヲ適用ス	河床ニ非ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢
第二十二條 編絲又ハ前條ノ規定ニ依リ規定スル綿又ハ綿絲ト看做ス	河床ニ非ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢
第二十三條 本法ニ依リ輕減又ハ免除セラレタル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテ輕減又ハ免除セラレタルモノ	河床ニ非ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢
第二十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス	河床ニ非ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢

又ハ朝鮮ニ移出スルモ織物消費稅法第  
三條第二項ノ規定及大正九年法律第五

十一號ヲ適用セズ

第三十條 本法ハ支那事變終了後其ノ年  
ノ翌年十二月三十日迄ニ之ヲ廢止ス  
ルモノトス

日滿國稅徵收事務共助法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議  
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十九日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

日滿國稅徵收事務共助法案

第一條 國稅、督促手數料、延滯金若ハ  
滯納處分費ヲ徵收セラルベキ者又ハ其  
ノ者ノ財產ガ滿洲國內ニ在ルトキハ當  
該官吏ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿洲國  
ノ當該官吏ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコト  
ヲ得

第一條 滿洲國ノ國稅、督促手數料、延

滯金若ハ滯納處分費ヲ徵收セラルベキ  
者又ハ其ノ者ノ財產ガ帝國內ニ在ル場  
合ニ於テ滿洲國ノ當該官吏ノ囑託アル  
トキハ當該官吏ハ命令ノ定ムル所ニ依

リ滿洲國ノ當該國稅、督促手數料、延  
滯金又ハ滯納處分費ヲ徵收シ之ヲ満洲  
國ノ當該官吏ニ送付スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於ケル徵收金ノ徵收ハ別

段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國ノ當  
該法令ニ依ル

該法令ニ依ル

テハ之ヲ國債ト看做ス

#### 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前募集シタル外國債ニハ本法ヲ  
適用セズ

過累進稅率ニ依ル増徵ニ改ムルコトガ適當  
ト認メマシタ次第デアリマス、次ニ所得稅  
ニ於キマシテハ、退職ニ依ル給與ニシテ五  
千圓ヲ超ニル場合ハ、他ノ所得トノ負擔ノ  
權衡ニ顧ミ之ニ課稅スルコト致シ、其ノ  
決定ヲ爲シ得ベキ期間ヲ延長シ、又所得調査  
委員ノ爲ス稅務ノ代理ニ付、兎角弊害ヲ生  
ジ易キ情況ニ顧ミ、之ガ取締規定ヲ設クル  
等、必要ナル改正ヲ加フルコトニ致シタノ  
デアリマス、相續稅ニ付キマシテ、負擔ノ  
平衡ヲ期スル爲、先ヅ臨時租稅增  
徵法中改正法律案、所得稅法中改正法律案、  
相續稅法中改正法律案、登錄稅法中改正法  
律案、酒造稅法中改正法律案、酒精及酒精  
含有飲料稅法中改正法律案、麥酒稅法中改  
正法律案及大正九年法律第十二號中改正  
法律案ノ八件ノ法律案ニ付キマシテ先ヅ御  
説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、政府ハ中央  
及地方ヲ通ズル稅制ノ全般的改正ヲ行フベ  
ク調査研究ヲ續ケテ參ツタノデアリマスル  
ガ、支那事變ニ因リマシテ稅制ノ基礎トナ  
ルベキ經濟事情、及び國民ノ負擔力ニ相當  
ノ變化ヲ生ジツ、アリマスルノデ、之ヲ當分  
見合セルコトニ致シタノデアリマス、併シ  
ナガラ現行租稅制度ノ上ニ於キマシテ、出  
來得ル限り負擔ヲ適正ヲ圖ル爲、部分的事  
項ニ付キマシテ改正スルノ必要ヲ認メマシ  
タノデ、是等稅法ノ改正ヲ致シタノデ、之ヲ當分  
ノデアリマス、各法案ノ内容ニ付テ申上  
ゲマスルト、先づ臨時租稅增徵法ニ付キマ  
シテハ、第三種所得稅ト相續稅等ノ增徵割  
率ニ付キマシテ改正スルノ必要ヲ認メタノデアリ

合ガ、階級割増率ニ依ル増徵ニ改ムルコトガ適當  
ト認メマシタ次第デアリマス、次ニ所得稅  
ニ於キマシテハ、退職ニ依ル給與ニシテ五  
千圓ヲ超ニル場合ハ、他ノ所得トノ負擔ノ  
權衡ニ顧ミ之ニ課稅スルコト致シ、其ノ  
決定ヲ爲シ得ベキ期間ヲ延長シ、又所得調査  
委員ノ爲ス稅務ノ代理ニ付、兎角弊害ヲ生  
ジ易キ情況ニ顧ミ、之ガ取締規定ヲ設クル  
等、必要ナル改正ヲ加フルコトニ致シタノ  
デアリマス、相續稅ニ付キマシテ、負擔ノ  
平衡ヲ期スル爲、先ヅ臨時租稅增  
徵法中改正法律案、所得稅法中改正法  
律案、酒造稅法中改正法律案、酒精及酒精  
含有飲料稅法中改正法律案、麥酒稅法中改  
正法律案及大正九年法律第十二號中改正  
法律案ノ八件ノ法律案ニ付キマシテ先づ御  
説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、政府ハ中央  
及地方ヲ通ズル稅制ノ全般的改正ヲ行フベ  
ク調査研究ヲ續ケテ參ツタノデアリマスル  
ガ、支那事變ニ因リマシテ稅制ノ基礎トナ  
ルベキ經濟事情、及び國民ノ負擔力ニ相當  
ノ變化ヲ生ジツ、アリマスルノデ、之ヲ當分  
見合セルコトニ致シタノデアリマス、併シ  
ナガラ現行租稅制度ノ上ニ於キマシテ、出  
來得ル限り負擔ヲ適正ヲ圖ル爲、部分的事  
項ニ付キマシテ改正スルノ必要ヲ認メマシ  
タノデ、是等稅法ノ改正ヲ致シタノデ、之ヲ當分  
ノデアリマス、各法案ノ内容ニ付テ申上  
ゲマスルト、先づ臨時租稅增徵法ニ付キマ  
シテハ、第三種所得稅ト相續稅等ノ增徵割  
率ニ付キマシテ改正スルノ必要ヲ認メタノデアリ

○國務大臣賀屋興宣君(演壇ニ登ル)

(國務大臣賀屋興宣君) 只今議題トナリ

判所ニ出訴スルコトヲ得  
第五條 第二條ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵  
收及送付ノ費用ハ帝國ノ負擔トス

#### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

國稅徵收法第四條ノ一第二號ヲ左ノ如ク  
改ム

二 府縣稅其ノ他ノ公課又ハ徵收ノ囑  
託ヲ受ケタル滿洲國ノ國稅ニ付滯納  
處分ヲ受クルトキ

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇  
ニ關スル法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議  
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十九日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇  
ニ關スル法律案  
本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇  
ニ關スル法律案  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

マス、次ニ支那事變特別稅法案並ニ臨時利得稅法中改正法律案ニ付テ説明ヲ申上ゲマス、支那事變ニ關スル臨時軍事費ニ付キマシテハ、第七十一議會及第七十二議會ノ御協賛ヲ得マシテ、之方經費ヲ支辨シ來シテ居ルノデアリマスルガ、今回更ニ之ヲ増額スルノ必要ヲ生ジマシタノデ、今回臨時軍事費追加豫算案ヲ提出致シマシテ、御協賛ヲ經マシタ次第デアリマスルガ、此ノ追加豫算案ニ於キマシテハ、其ノ財源ノ大部分ハ之ヲ公債ニ俟ツコト致シタノデアリマス、併シナガラ其ノ一部ハ銃後ノ國民ガ、租稅ヲ以テ其ノ分ニ應ジ負擔スルヲ適當ト認メマシタノデ、茲ニ增稅案ヲ提出致シタ次第デアリマス、租稅ノ増徵ニ當リマシテハ、政府ハ國民ノ負擔力ニ留意シ、所得稅ヲ中心ト致シテ増收ヲ圖ルコトト致シ、又事變ノ影響ニ依リ利益ノ著シク増加シタモノニ對シテハ、新規稅ノ範圍ヲ擴張シ、新タニ通行稅、入場稅ヲ創設スルコト致シタノデアリマス、尙昨年御協賛ヲ得マシテ目下施行セラレテ居リマスル北支事件特別稅ハ、今回ノ增稅案ノ施行ト共ニ廢止セラレル豫定デアリマス、是ヨリ法案ノ内容ニ付テ、概略ヲ申上ゲマス、所得稅ニ付テハ其ノ負擔ヲ一割五分程度引上グルコト致シマシタガ、北支事件特別稅ニ於テ、稅額ノ一割程度ノ增徵ヲ行ツ

テ居ルノデアリマスカラ、今回ノ增徵ニ因ル負擔ノ增加ハ一割五分程度ニ止ルノデアリマス、尙法人ノ所得稅ニ付テハ、超過所得ニ對スル增徵額ハ北支事件特別稅ト同様之ヲ一割程度ニ止メ、第二種所得稅ニ於テハ、國債ノ消化並ニ產業資金ノ疏通等ヲ考慮致シマシテ、國債ノ利子ニ付テハ利率年四分以上ノモノニ對シテハ増徵ヲ見合セ、又地方債並ニ社債ノ利子ニ付テハ、利率年四分五厘以下ノモノ、銀行預金ノ利子、貸付信託ノ利益ニ付テハ、其ノ增徵率ヲ少く致シテ居ルノデアリマス、第三種即チ個人ノ所得稅ニ付キマシテハ、其ノ課稅ノ最低限千二百圓ヲ千圓ニ引下ゲマシテ、國民ノ所得稅ヲ負擔スル範圍ヲ廣ク致シタノデアリマス、臨時利得稅ニ付キマシテハ、北支事件特別稅ト同様ノ課稅デアリマスガ、更ニ支那事變ノ影響等ニ依リマシテ、利益ノ増大スルモノニ對シマシテハ、此ノ際增徵スルコトヲ適當ト認メマシテ、昭和九年、十年、十一年ノ三箇年ノ平均利益ヲ超過スル利得ニ對シ、法人ニ付テハ百分ノ三十、個人ニ付テハ百分ノ二十ノ稅率ニ依リ、新タニ課稅スルコト致シタノデアリマス、尙各種ノ租稅ノ範圍ヲ擴張シ、新タニ通行稅、入場稅ヲ創設スルコト致シタノデアリマス、尤モ資本十萬圓以下ノ法人ニ付テハ稍、之ヲ緩和行ト共ニ廢止セラレル豫定デアリマス、是ヨリ法案ノ内容ニ付テ、概略ヲ申上ゲマス、所得稅ニ付テハ其ノ負擔ヲ一割五分程度引上グルコト致シマシタガ、北支事件特別稅ニ於テ、稅額ノ一割程度ノ增徵ヲ行ツ

テ居ルノデアリマスカラ、今回ノ增徵ニ因ル負擔ノ增加ノ緩和ヲ圖ツタ次第デアリマス、尙各種ノ租稅ノ增徵ノ結果、其ノ負擔が特ニ過重トナル場合ガアリマスノデ、其ノ負擔ノ總額ヲ限定致シマスル所ノ負擔緩和ノ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、利益配當稅及ビ公債及社債利子稅ハ、配當ニ付テハ配當率年七分ヲ超ユル金額、國債ニ付テハ利率年四分、其ノ他ノ公債及社債ニ付テハ利率年四分五厘ヲ超ユル金額ニ對シ百分ノ十五回半ノ税率ヲ以テ課稅スルコトナッテ居リマスガ、是ハ北支事件特別稅ト同様デアリマスガ、又法人資本稅ニ付テハ新タニ二割ヲ增徵スルコト致シタノデアリマス、次ニ砂糖消費稅ニ付テハ稅額ニ付約一割ノ増徵ヲナスト共ニ、其ノ徵收ヲ猶豫スル期間ヲ此ノ際三箇月短縮スルコト致シ、取引引上げ萬分ノ六ニ致シ、短期ニ付テハ約四割八分ヲ引上げ萬分ノ四ニ致シタノデアリマス、通行稅ハ汽車汽船等ノ乗客ニ對シ課稅スルノデアリマスガ、五十粒未滿ノ三等乘客ニ對シマシテハ、其ノ負擔力ヲ考慮シ、課稅ヲ差控ヘタノデアリマス、而シテ其ノ稅率ハ、距離ト等級ニ應ジタル階級定額稅率ヲ設クルコトニ致シマシタ、入場稅額稅率ヲ設クルコトニ致シマシタ、學生ノ運動競技等ヲ野球場、競馬場等ノ入場者ニ對シ、大體其ノ入場料金ノ百分ノ十ノ稅率ヲ以テ課稅スルコトニ致シマシタ、學校、舞踏場、「ゴルフ」場、劇場、活動寫眞館、舞踏場、「ゴルフ」場、觀覽スル爲入場スル者ニ對シ、特別入場稅ヲ課稅スルコトニ致シタノデアリマス、又物品稅ニ付テハ、北支事件特別稅法ニ依

テ居ルノデアリマスカラ、今回ノ增徵ニ因ル負擔ノ增加ノ緩和ヲ圖ツタ次第デアリマスガ、初年度タル昭和十三年度ニ於キマシテハ約三億六百萬圓ノ增收トナル見込約三億一千八百萬圓ノ增收トナル見込デアリマス、是等ノ收入ハ煙草ノ一部ノ値上ニ因ル昭和十三年度ニ於ケル增收約一千餘萬圓ト共ニ、全部臨時軍事費ノ財源ニ充てル計畫デアリマス、次ニ臨時租稅措置法案ニ付テ説明ヲ致シマス、中小商工業者又

ハ自作農者ノ中ニアリマシテ、支那事變ノ影響等ニ因リマシテ、其ノ収益ノ相當減少シテ居ル者モアルト認メラマスノデ、是等ノ人々ノ負擔スル地租ハ營業収益稅ヲ、現行法ノ儘賦課徵收致シマスルコトハ適當デナイト存ジマシテ、茲ニ臨時措置ト致収益ノ減少致シマシタ是ノ者ニ對シ、其ノ負擔ヲ輕減致シタイト存ズルノデアリマス、尙本案ノ施行ニ伴ヒマシテ、地方附加稅及地方稅ニ付テモ相當輕減スルコトト致シタイト思フノデアリマス、又我ガ國ニ於キマシテ、此ノ際必要トスル鑛產物ノ產出ノ助長ヲ圖ル趣旨ヲ以チマシテ、金鑛、銅鑛、亞鉛鑛、錫鑛等ノ鑛物ニ付、新タニ採掘權ヲ設定シタル場合、及昭和十二年中ニ產出數量ヲ超過致シマシタ場合ニハ、其ノ鑛物ニ付鑛產稅ヲ免除スルコトト致シ、又コトト致シマシタガ、是ハ是等ノ砂鑛區ニ付其ノ採掘量ヲ増加セシメムトスル趣旨デアリマス、其ノ他棉花ノ節約ニ資スル爲、  
「ステープル・ファイバー」、麻等ヲ混紡シタル綿絲ニ依ル織物ノ一部ガ、現在課稅セラレテ居リマスルノヲ課稅外ニ置クコトト致シタノデアリマス、以上申述べマシタ臨時的措置ニ依リマシテ、大體平年度ニ於キマシテハ、地租、營業収益稅、鑛產稅、織物消費稅等ノ減收額合計約四百餘萬圓、地方稅ニアリテハ地租附加稅、營業収益稅附加稅

等ノ減收額、合計六百餘萬圓、合セマシテ次ニ日滿國稅徵收事務共助法案ニ付キマシシ、特ニ地租及營業収益稅ノ稅額ヲ輕減シ、現行法ノ儘賦課徵收致シマスルコトハ適當デナイト存ジマシテ、茲ニ臨時措置ト致シ、其ノ負擔ヲ輕減致シタイト存ズルノデアリマス、尙本案ノ施行ニ伴ヒマシテ、地方附加稅及地方稅ニ付テモ相當輕減スルコトト致シタイト思フノデアリマス、又我ガ國ニ於キマシテ、此ノ際必要トスル鑛產物ノ產出ノ助長ヲ圖ル趣旨ヲ以チマシテ、金鑛、銅鑛、亞鉛鑛、錫鑛等ノ鑛物ニ付、新タニ採掘權ヲ設定シタル場合、及昭和十二年中ニ產出數量ヲ超過致シマシタ場合ニハ、其ノ鑛物ニ付鑛產稅ヲ免除スルコトト致シ、又コトト致シマシタガ、是ハ是等ノ砂鑛區ニ付其ノ採掘量ヲ増加セシメムトスル趣旨デアリマス、其ノ他棉花ノ節約ニ資スル爲、  
「ステープル・ファイバー」、麻等ヲ混紡シタル綿絲ニ依ル織物ノ一部ガ、現在課稅セラレテ居リマスルノヲ課稅外ニ置クコトト致シタノデアリマス、以上申述べマシタ臨時的措置ニ依リマシテ、大體平年度ニ於キマシテハ、地租、營業収益稅、鑛產稅、織物消費稅等ノ減收額合計約四百餘萬圓、地方稅ニアリテハ地租附加稅、營業収益稅附加稅

約一千萬圓ノ減收トナル見込デアリマス、  
テ說明ヲ致シマス、近時滿洲國ノ發展ニ伴ヒマシテ、日滿兩國間ノ交通頻繁トナリツ、  
アルノニ顧ミマシテ、兩國相互間ニ國稅徵收事務ノ共助ヲ爲シ得ルノ途ヲ開クコトト致シ、茲ニ本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、最後ニ本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇ニ關スル法律案ニ付テ說明ヲ申上ゲマス、我ガ國ノ國債ニ對シマシテハ、租稅ノ賦課竝ニ納稅ノ擔保ニ付、其ノ性質上他ノ有價證券ニ比シ特例ガ設ケラレテ居ルノデアリマスルガ、外國ノ國債ニ付キマシテハ、斯カル取扱ヲ未ダ致シテ居ラナイノデアリマス、然ルニ外國ノ國債ニ付キマシテモ、我ガ國內ニ於テ募集セラレタルモノニ付テハ、此ノ際一定條件ノ下ニ、我ガ國ノ國債ト同様ノ待遇ヲ與ヘ、其ノ發行ニ便宜アラシメタイト存ズルノデアリマス、差當ノ付キマシタノヲ、二十三錢未滿ノ場合ヲ免稅ト變更致シタノデアリマス、尙其ノ外ニ是ハ滿洲國ノ國債ニ其ノ適用アリト認メテ、我ガ國内ニ於テ募集セラレタルモノニ付キマシテハ、御審議ノ結果、衆議院ノ修正ニ付キマシテアリマス、以上諸法案ニ付政府ノ原案竝ニ衆議院ニ於ケル修正ニ關シマシテ、其ノ大體ヲ説明致シマシタガ、尙詳細ノ點ニ付キマシテハ、委員會等適當ノ機會ニ於テ説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、何卒御審議ノ上速カニ各法案ノ設立ヲ見ルニ至ラムコトヲ希望シテ已マナイ次第デアリマスコトヲ希望シテ已マナイ次第デアリマス○子爵戸澤正己君只今日程ニ上リマシタコトヲ希望シテ已マナイ次第デアリマス、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括加ヘタノデアリマス、衆議院ノ修正ノ第一點支那事變特別稅法案外十二件ハ、重要ナル法案デゴザイマスルガ故ニ、其ノ特別委員会數ヲ二十五名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵池田政時君賛成  
タル殘額ニ對シ課稅スルコトニ致シタノデアリマス、其ノ他ノ修正ハ全部支那事變特別稅法案ニ關スルモノデアリマシテ、修正ノ第二點ハ所得稅中第一種所得稅及第三種所得稅ノ增徵割合、原案ハ二割五分トナツテ居リマシタモノヲ、二割二分五厘ト致シタノデアリマス、修正ノ第三點ハ砂糖消費稅ノ增徵率ニ付、原案ニ比シ百斤ニ付十錢方ノ引下ヲ爲シタノデアリマス、修正ノ第四點ハ入場稅ニ付テ一人一回ノ入場料十九錢未滿ノ場合ハ之ヲ免稅スルコトニナッテ居リマシタノヲ、二十三錢未滿ノ場合ヲ免稅ト變更致シタノデアリマス、尙其ノ外ニ是ハ滿洲國ノ國債ニ其ノ適用アリト認メテモ、我ガ國内ニ於テ募集セラレタルモノニ付キマシテハ、御審議ノ結果、衆議院ノ修正ニ付キマシテアリマス、以上諸法案ニ付政府ノ原案竝ニ衆議院ニ於ケル修正ニ關シマシテ、其ノ大體ヲ説明致シマシタガ、尙詳細ノ點ニ付キマシテハ、委員會等適當ノ機會ニ於テ説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、何卒御審議ノ上速カニ各法案ノ設立ヲ見ルニ至ラムコトヲ希望シテ已マナイ次第デアリマスコトヲ希望シテ已マナイ次第デアリマス○子爵戸澤正己君只今日程ニ上リマシタコトヲ希望シテ已マナイ次第デアリマス、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括加ヘタノデアリマス、衆議院ノ修正ノ第一點支那事變特別稅法案外十二件ハ、重要ナル法案デゴザイマスルガ故ニ、其ノ特別委員会數ヲ二十五名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ  
〔石橋書記官朗讀〕  
支那事變特別稅法案外十二件特別委員会  
公爵岩倉 具榮君 侯爵大隈 信常君  
伯爵酒井 忠正君 子爵前田 利定君  
子爵大河内輝耕君 子爵西尾 忠方君  
子爵裏松 友光君 内田 重成君  
勝田 主計君 男爵赤松 範一君  
男爵松平與麿君 男爵深尾隆太郎君  
三浦 新七君 河田 烈君  
西野 元君 加藤政之助君  
各務 鎌吉君 森 平兵衛君  
小倉 正恒君 橋本辰二郎君  
田中徳兵衛君 給原武太郎君  
大和田健三郎君  
○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第十四、硫酸アンモニア增產及配給統制法案外一件、日程第十五、臨時農村負債處理法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括致シマシテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、有馬農林大臣

硫酸アンモニア増産及配給統制法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十九日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿  
衆議院議長小山松壽

硫酸アンモニア増産及配給統制法案  
硫酸アンモニア増産及配給統制法

第一條 政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル硫酸アンモニア製造設備

ノ新設又ハ増設ヲ爲シタル硫酸アンモニア製造業者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間

其ノ設備ヲ以テ營ム硫酸アンモニア製造業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

前項ノ硫酸アンモニア製造業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ硫酸アンモニア製造業ヲ營ム場合ニ於テモ其

ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得税及營業收益稅ヲ免除セラレタル硫酸アンモニア製造業者ニハ其ノ免除セ

ラレタル事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 硫酸アンモニア製造業ヲ繼續ス

ル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ本法ニ依ル所得稅及營業收益稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第四條 第一條第一項ニ規定スル硫酸アンモニア製造業ノ爲必要ナル器具又ハ機械ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキ

ハ本法施行ノ日ヨリ五年間勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第五條 第一條第一項ニ規定スル硫酸アンモニア製造業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第六條 硫酸アンモニア製造業者タル株式會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第七條 硫酸アンモニア製造業者タル株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株

金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ガ拂込ミタル株金額ニ満タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特

別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要

ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第八條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ硫酸アンモニア製造業者ニ對シ硫酸アンモニア製造設備ノ増設又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ硫酸アンモニア製造業者ノ行フリト認ムルトキハ日本硫安株式會社ニ對シ硫酸アンモニア製造事業ニ依リ硫酸アンモニアノ供給ヲ確保スルコト困難ナリト認ムルトキハ日本硫安株式會社ニ

硫酸アンモニア製造設備ノ新設、増設又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前二項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スペキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ日本硫安株式會社ニ對シ硫酸アンモニアノ配給統制上又ハ供給確保上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十條 硫酸アンモニア製造業者及命令ヲ以テ定ムル硫酸アンモニアノ取扱ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ取扱ニ係ル硫酸アンモニアヲ目

ノハ日本硫安株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第十六條 日本硫安株式會社ニ非ザルモノハ日本硫安株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第十七條 日本硫安株式會社ニ取締役五人以上及監査役二人以上ヲ置ク

取締役ハ株主總會ニ於テ選舉シタル候補者中ヨリ政府之ヲ命ズ

第十八條 日本硫安株式會社ハ左ノ事業

本硫安株式會社ニ賣渡スベシ  
一 硫酸アンモニアノ買入及販賣

二 硫酸アンモニアノ輸出、輸入、移

ノ状況ニ關シシ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 日本硫安株式會社ハ硫酸アンモニア需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第十三條 日本硫安株式會社ノ資本ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第十四條 日本硫安株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第十五條 日本硫安株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

第十六條 日本硫安株式會社ニ非ザルモノハ日本硫安株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第十七條 日本硫安株式會社ニ取締役五人以上及監査役二人以上ヲ置ク

取締役ハ株主總會ニ於テ選舉シタル候補者中ヨリ政府之ヲ命ズ

第十八條 日本硫安株式會社ハ左ノ事業

本硫安株式會社ニ賣渡スベシ  
一 硫酸アンモニアノ買入及販賣

二 硫酸アンモニアノ輸出、輸入、移

出及移入

三 硫酸アンモニアノ製造其ノ他硫酸  
アンモニアノ供給確保上必要ナル事  
業但シ硫酸アンモニアノ製造ハ硫酸  
アンモニア製造業者ノ行フ硫酸アン  
モニア製造事業ニ依リ硫酸アンモニ  
アノ供給ヲ確保スルコト困難ナリト  
認メラル場合ニ限ル

四 其ノ他硫酸アンモニアノ需給ノ圓  
滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事  
業

前項第三號又ハ第四號ニ掲グル事業ヲ  
營マントストキハ政府ノ認可ヲ受ク  
ベシ

第十九條 日本硫安株式會社ハ拂込ミタ  
ル株金額ノ五倍ヲ限り硫安債券ヲ發行  
スルコトヲ得

第二百九條 リ定ムル決議ニ依ルコトヲ  
スル安債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法

第二十九條 日本硫安株式會社借入金ヲ  
爲サントストキハ政府ノ認可ヲ受ク  
ベシ

第三十條 硫安債券ヲ發行セントスル場  
合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十一條 政府ハ硫安債券ノ元本ノ償  
還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得  
シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名

式ト爲スコトヲ得  
第二十三條 硫安債券ノ所有者ハ日本硫  
安株式會社ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先  
チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ

換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ硫  
安債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ  
於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額  
ニ相當スル舊硫安債券ヲ償還スペシ  
第二十五條 日本硫安株式會社ハ每營業  
年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲  
利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立ツベシ  
第二十六條 日本硫安株式會社ハ拂込ミ  
タル株金額ニ對シ勅令ヲ以テ定ムル割  
合ヲ超エテ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得  
第二十七條 政府ハ日本硫安株式會社ノ  
業務ヲ監督ス

第三十二條 日本硫安株式會社ハ社債借  
貸ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ硫  
安債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ  
於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額  
ニ相當スル舊硫安債券ヲ償還スペシ  
第二十八條 日本硫安株式會社借入金ヲ  
爲サントストキハ政府ノ認可ヲ受ク  
ベシ

第二十九條 日本硫安株式會社ノ定款ノ  
變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決  
議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其  
ノ效力ヲ生ゼズ

第三十條 日本硫安株式會社ハ每營業年  
度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受ク  
ベシ之ヲ變更セントストキ亦同ジ

第三十一條 日本硫安株式會社ハ命令ヲ  
以テ定ムル場合ヲ除クノ外政府ノ認可  
シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス  
第三十二條 第八條第一項又ハ第二項ノ  
規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二千  
圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 第十一條ノ規定ニ依ル報告

ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ檢

査ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シタル者ハ五

ル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十四條 日本硫安株式會社ハ社債借  
貸ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ硫  
安債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ  
於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額  
ニ相當スル舊硫安債券ヲ償還スペシ  
第二十五條 日本硫安株式會社ハ每營業  
年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲  
利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立ツベシ  
第二十六條 日本硫安株式會社ハ拂込ミ  
タル株金額ニ對シ勅令ヲ以テ定ムル割  
合ヲ超エテ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得  
第二十七條 政府ハ日本硫安株式會社ノ  
業務ヲ監督ス

第三十三條 政府ハ日本硫安株式會社監  
理官ヲ置キ日本硫安株式會社ノ業務ヲ  
監視セシム

第三十四條 日本硫安株式會社監理官ハ  
何時ニテモ日本硫安株式會社ノ帳簿書

類、金庫其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得  
日本硫安株式會社監理官必要ト認ムル  
トキハ何時ニテモ日本硫安株式會社ニ  
合ヲ超エテ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得  
日本硫安株式會社監理官ハ株主總會其  
ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述ス  
ルコトヲ得

第三十五條 政府日本硫安株式會社ノ決

議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キ  
テ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益  
ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消  
シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第三十六條 重要肥料業統制法第十條第

一項ノ規定ヘ日本硫安株式會社ニ付テ  
ハ之ヲ適用セズ

第三十七條 第九條ノ規定ニ依ル命令又

ハ第十條若ハ第三十一條ノ規定ニ違反  
シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第八條第一項又ハ第二項ノ  
規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二千  
圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第十一條ノ規定ニ依ル報告

ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ檢

査ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シタル者ハ五

ル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十條 人又ハ法人ノ代理人、戸主、  
家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務  
ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命  
令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタ  
ルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ  
以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發ス  
ル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者  
ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他  
ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成  
年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定  
代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成  
年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ  
付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條 左ノ場合ニ於テハ日本硫安  
株式會社ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ  
監査役ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ  
處ス

第四十三條 第十六條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第二十二條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第二十二條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第二十二條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十六條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十五條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十八條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十一條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十二條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十三條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十五條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十三條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十二條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇一條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇二條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇五條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇六條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇七條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇八條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇九條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇一〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇一一條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇一二條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三一〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三二〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三三〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三四〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三五〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三六〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三七〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三八〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇三九〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四一〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四二〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四三〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四四〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇一〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇二〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇三〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇四〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇五〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇六〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇七〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇八〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇九〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇一〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇二〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇三〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇四〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇五〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇六〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇七〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇八〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇九〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇一〇〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇二〇〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇三〇〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇四〇〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇五〇　〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇六〇　〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇七〇　〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇八〇　〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇九〇　〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇一〇　〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇二〇　　〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇三〇　　〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇四〇　　〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇五〇　　〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇六〇　　　〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百〇四五〇七〇　　　　〇〇條 第二十四條ノ規定ニ違反シ  
タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 非訟事件手續法第二百六條  
乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

## 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

臨時肥料配給統制法第一條第一項ノ規定

ニ依リ硫酸アンモニアノ配給統制上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ぜラレタル株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ商法第二百九條ニ定ムル株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ日本硫安株式會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ名稱ノ變更其ノ他定款ノ變更ノ決議ヲ爲シ且第十七條

第二項ノ取締役候補者ノ選舉ヲ行フコトヲ要ス

前二項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二項ノ決議ナキ場合ニ於テハ政府ハ設立委員ヲ命ジ日本硫安株式會社ノ設立ニ

關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

前二項ニ定ムルモノノ外日本硫安株式會社ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録稅法第六條第一項第十一號中「東北興業債券」ヲ下ニ「硫酸債券」ヲ加フ

臨時農村負債處理法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月十九日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

臨時農村負債處理法案

臨時農村負債處理法

第一條 本法ハ支那事變又ハ支那事變ニ際シテノ滿洲ニ於ケル軍事行動ニ關シ戰鬪其ノ他ノ公務ニ從事シ爲ニ死歿シタル者ノ遺族又ハ之ガ爲傷痍ヲ受ケ若ハ

疾病ニ罹リタル者若ハ其ノ家族ニシテ農山漁村ニ居住スルモノ（以下戰死傷者遺家族ト稱ス）ノ經濟更生ヲ圖ル爲其ノ負債ヲ處理スルコトヲ目的トス

戰死傷者遺家族ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

戰死傷者遺家族前項ノ承認ヲ受ケズシテ其ノ負債ノ全部又ハ一部ニ付辨濟、

相殺又ハ更改ヲ爲シタルトキハ委員會ハ其ノ者ノ負債處理ノ申出ニ付取消アリタルモノト看做スコトヲ得

第五條 委員會必要アリト認ムルトキハ

第三條第一項ノ申出ヲ受理シタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停ノ開始ヲ求ムルコトヲ得

第六條 第三條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停事件繫屬スルトキハ裁判所又ハ

第七條 負債整理組合又ハ市町村負債整

件ノ緩和ニ關スル協定ニ付幹旋ヲ爲シ其ノ者ノ負債處理計畫ヲ樹立スペシ委員會ノ組織、權限其ノ他必要ナル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 戰死傷者遺家族前條第二項ノ規定ニ依ル幹旋ノ終了前同條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ノ全部又ハ一部ニ付辨濟、相殺又ハ更改ヲ爲サントスルトキハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ委員會ノ承認ヲ受クベシ但シ債務者ハ之ガ爲ニ遲延ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ズ

戰死傷者遺家族前項ノ承認ヲ受ケズシテ其ノ負債ノ全部又ハ一部ニ付辨濟、

相殺又ハ更改ヲ爲シタルトキハ委員會ハ其ノ者ノ負債處理ノ申出ニ付取消アリタルモノト看做スコトヲ得

第十條 市町村負債整理委員會其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノハ委員會ノ請求アリタルトキハ本法ニ依ル負債ノ處理ニ關シ意見ヲ具申シ又ハ調查ヲ爲スベシ

第十一條 市町村又ハ産業組合中央金庫ハ本法ニ依ル負債處理ヲ助成スル爲必要アリト認ムルトキハ戰死傷者遺家族又ハ負債整理組合ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

産業組合中央金庫ノ爲ス前項ノ特別融通ハ所屬信用組合ガ農村負債整理組合ニ對シ負債處理組合ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停委員會ハ同條第二項ノ規定ニ依ル幹旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得

アリタル負債ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同條第二項ノ規定ニ依ル幹旋ノ終了ニ至ル迄負債ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ幹旋ヲ休止スペシ

第八條 委員會必要アリト認ムルトキハ期日及場所ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ得

委員會ハ幹旋ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第九條 當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ委員會ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得

委員會ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

スコトヲ得

ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ信用

組合ニ對シ之ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行、農工銀行又ハ北海道拓

殖銀行(以下融資銀行ト稱ス)ハ戰死傷

者遺家族ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ

依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

第十二條 市町村、産業組合中央金庫又

ハ融資銀行ガ前條ノ規定ニ依リ特別融

通ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ

日ヨリ勅令ヲ以テ定ムル日迄トシ其ノ

融通ノ期限ハ本法施行ノ日ヨリ二十五

年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十三條 産業組合中央金庫特別融通及

損失補償法第三條及第四條ノ規定ハ產

業組合中央金庫ガ第十一條ノ規定ニ依

ル特別融通ヲ爲ス場合ニ、農村負債整

理資金特別融通及損失補償法第三條並

ニ不動産融資及損失補償法第四條及第

五條ノ規定ハ融資銀行ガ第十一條ノ規

定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ之ヲ準

用ス

第十四條 北海道府縣ハ第十一條ノ規定

ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ市町村ガ

損失ヲ受ケタルトキニ對シ其ノ特別

融通額ノ十分ノ六以内ノ金額(市町

村ニ對スル損失補償金)ヲ補償スルノ

契約ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ損失補償ノ契約ニ基キ北

海道府縣ガ損失補償ヲ爲シタルトキ之

ニ對シ其ノ市町村ニ對スル損失補償金ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ補給スル

ノ契約ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ北海道府縣ガ市町

村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テ

ハ北海道府縣ノ市町村ニ對スル損失補

償金中其ノ六分ノ一ニ相當スル金額ヲ

當該市町村ニ於テハ負擔スベキ旨ヲ定

ムベシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令

ノ定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スベキ

金額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲シ又ハ市

町村ヲシテ負擔ヲ爲サシメザルコトヲ

得

第十五條 政府ハ第十一條ノ規定ニ依ル

特別融通ヲ爲スニ因リ産業組合中央金

庫又ハ融資銀行ガ損失ヲ受ケタルトキ

ハ産業組合中央金庫ニ對シテハ其ノ特

別融通總額ノ十分ノ六以内、融資銀行

ニ對シテハ其ノ特別融通總額ノ十分ノ

四以内ノ金額ヲ補償スルノ契約ヲ爲ス

コトヲ得

第十六條 第十四條第一項及前條ノ損失

ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ

協議シテ之ヲ定ム

第十七條 第十四條第二項及第十五條ノ

規定ニ依ル政府ノ補給金及補償金ト農

村負債整理資金特別融通及損失補償法

第五條第二項及第六條ノ規定ニ依ル政

府ノ補給金及補償金ト合計額ハ同法

第八條ノ規定ニ依ル補給金及補償金ノ

總額ノ限度ヲ超エザルモノトス

第十八條 第十一條ノ規定ニ依ル特別融

通ヲ爲シタルニ因リ市町村、産業組合

増産及配給統制法案外一件 第一章

中央金庫又ハ融資銀行ノ受ケタル損失

及其ノ額ハ農村負債整理資金特別融通

及損失補償法第九條ノ負債整理資金特

別融通審査會之ヲ決定ス

第十九條 第十四條第二項及第十五條ノ

契約ニ基キ政府ガ北海道府縣、產業組

合中央金庫及融資銀行ニ對シ支拂フベ

キ補給金又ハ補償金ハ國債證券ヲ以テ

之ヲ交付スルコトヲ得

第二十條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付

スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發

行スルコトヲ得

第二十一條 本法ニ依リ交付スル國債證

券ノ交付價格ハ時價ヲ參照シテ大藏大

臣之ヲ定ム

第二十二條 農村負債整理組合法第八條

ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人

ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ負債整理

組合ト看做ス

第二十三條 本法中町村トアルハ町村制

ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキ

モノトス

#### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣伯爵有馬賴寧君演壇ニ登ル)

○國務大臣(伯爵有馬賴寧君)只今上程ニ

相成リマシタ硫酸「アンモニア」増産及配給

統制法案ハ商工、農林兩省共同提案ニ係ル

モノニアリマスガ、便宜私カラ大體ノ趣旨

ヲ御説明申上ダマス、硫酸「アンモニア」ノ

マス所ハ大要次ノ通リデアリマス、第一點

消費額ハ我ガ國肥料消費額ノ首位ヲ占メ、

其ノ消費增加ノ趨勢ハ極メテ著シキモノガ

アリマス、之ニ對シ硫酸「アンモニア」ノ供

給ヲ潤澤ナラシムルト共ニ、其ノ配給ノ圓

滑及價格ノ公正ヲ圖リマスコトハ、農業經

營ノ改善、特ニ銑後農村經濟ノ安定ト、農

業生產ノ確保上極メテ緊要ナルノミナラズ、

他面硫酸「アンモニア」製造事業ノ軍需工業

トシテノ重要ナル意義ニ照シマシテモ、頗

ル緊要トスル次第デアリマス、然ルニ硫酸

「アンモニア」ノ國內生產ハ遺憾ナガラ需要

ノ增加ニ應ズルコトヲ得マセヌノデ、毎年

海外ヨリ相當多額ノ輸入ヲ餘儀ナクセラレ、

肥料政策上種々支障ヲ生ジマスト共ニ、多

額ノ對外支拂ヲ致シテ居ル次第デアリマス、

從ヒマシテ硫酸「アンモニア」製造事業ヲ確

立シ、年々增大スル需要ニ應ジ得ベキ十分

ナル數量ノ供給ヲ確保致シマシテ、海外依

存ノ狀態ヲ脱却シ、有事ノ際ニ於ケル軍需

資材生産ヘノ轉換ヲモ考慮シテ、相當ノ輸

出餘力ヲ保有スル程度ニ達セシメマスト共

ニ、一方需要著増ノ趨勢ニ鑑ミマシテ、之

ガ配給機構ノ確立ヲ圖リ、硫酸「アンモニ

ア」ノ需給ノ圓滑ト、價格ノ公正ヲ期スルノ

方策ヲ講シマスコトハ、我ガ國產業ノ發展

ト國防ノ安固ヲ期シ、國際貸借ノ改善ニ資

スル上ニ於テ、現下ノ急務トスル所デアリ

マス、本法案ハ右ノ趣旨ニ基キマシテ立案

セラレタノデアリマスガ、其ノ骨子ト致シ

マス所ハ大要次ノ通リデアリマス、第一點

ハ、民間ニ於ケル硫酸「アンモニア」製造事

業ノ擴充ヲ促進致シマス爲ニ、今後五箇年間ニ硫酸「アンモニア」製造設備ヲ新設又ハ増設ヲ致シマス者ニ對シ、其ノ設備ヲ以テ營ム硫酸「アンモニア」製造業ニ付、一定年間諸稅ノ免除及器具機械ノ輸入税ノ免除、其ノ他事業資金ノ調達上ノ便宜ヲ得シムル爲ニ、株金全額拂込前ノ増資ヲ認メ、又社債發行限度ヲ擴張スル等、諸種ノ保護特典ヲ與フルコト致シマスト共ニ、必要ニ應ジテ硫酸「アンモニア」ノ製造業者及日本硫安株式會社ニ對シ、增產ノ命令ヲ爲スコトトシ、速カニ硫酸「アンモニア」ノ自給ヲ圖ラムトスルノアリマス、第二點ハ、資本金一千萬圓ノ特殊會社ヲ設立セシメ、之ニ對シ社債發行限度ノ擴張ヲ認ムルト共ニ、政府ハ社債ノ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトシ、硫酸「アンモニア」ノ配給統制事業ヲ行ハシメ、且必要アル場合ニ於テハ、本會社ヲシテ硫酸「アンモニア」ノ製造、其ノ他供給確保上必要ナル事業ヲモ行ハシメムトスルノデアリマス、詳細ハ委員會ニ於テ御説明申上ゲルコトト致シマスガ、何卒十分御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望致シマス、次ニ臨時農村負債處理法案ニ付テ、其ノ提案理由ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、昭和八年農村負債整理組合法ノ成立ヲ見マシテ、農山漁村ニ居住スル者ノ經濟更生ヲ圖ル爲ニ、負債ノ整理ヲ爲サシムルコトヲ目的トスル農村負債整理制度ガ確立セラレタノデアリマスガ、更ニ昨年法律ノ一部改正及ビ

農村負債整理資金特別融通及損失補償法ノ成立ニ依リ、一層制度ノ擴充ヲ見ルニ至リマシタコトハ御承知ノ通リデアリマス、然ルニ今次支那事變ノ勃發致シマスルヤ、農山漁村ヨリ多數ノ應召者ヲ出シタノデアリマスガ、其ノ中ニハ名譽ノ戰死ヲ遂ゲ、或ハ傷痍ヲ被リ、又ハ不幸疾病ニ罹ルニ至ツタ者モ少クナインデアリマシテ、是等戰死傷者遺家族ニ付テ、其ノ經濟更生ヲ圖ル爲ニ、負債整理ニ關シ此ノ際特別ノ制度ヲ設ケマスコトハ、銃後施設ノ一端ト致シマシテモ、亦極メテ緊要ノコトト存ズルノデアリマス、仍テ茲ニ臨時農村負債處理制度ヲ立ツルコトト致シタノデアリマス、次ニ本制度ニ於キマシテ從來ノ制度ヲ擴充致シマシタ主ナル點ヲ申上ゲマスト、第一ハ戰死傷者遺家族ノ負債處理ニ付キマシテ、其ノ處理ノ簡易化ヲ圖タコトデアリマス、第二ハ道府縣ニ臨時負債處理委員會ヲ設置シ、從來ノ制度ニ依ル市町村負債整理委員會ニ代ッテ債

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十六、石油資源開發法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長副島伯爵  
 (左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之倣フ)  
 石油資源開發法案  
 右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及  
 報告候也  
 昭和十三年三月十七日  
 委員長 伯爵副島 道正  
 (伯爵副島道正君演壇ニ登ル)  
 貴族院議長伯爵松平賴壽君  
 ○伯爵副島道正君 石油資源開發法案ニ付  
 キマシテ、委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ三日間、五時間ニ亘り  
 マシテ開會ヲ致シマシタ、其ノ中二時間半  
 ハ殆ド純秘密會トモ申スペキモノデ、速記者ノ退席モ求メテ、忌憚ナク話合ヲ致シタノ  
 デゴザイマス、故ニ御報告申上ゲベキモノ  
 モ知レヌト云フ考カラ、濫掘セラル、傾ガ

ケレバ兩案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセ  
 マス  
 (丸龜書記官朗讀)  
 硫酸アンモニア増產及配給統制法案外一件特別委員

公爵監司 信輔君 伯爵後藤 一藏君  
 男爵高橋 是賢君 男爵松田 正之君  
 男爵園田 稲畑勝太郎君 菊池 恭三君  
 岩崎 清行君 野村茂久馬君

ハ僅カ二時間半ニ亘ルモノデアリマスルカラシテ、從ツテ御報告ハ極メテ簡単デアルコトヲ免レナイト存ジマス、先づ政府委員ノ說明カラ申シマスルト、政府委員ノ説明ニ曰ク、石油ハ產業上、國防上最モ大切ナルモノデアル、故ニ其ノ需給ノ確保ト云フモノハ刻下ノ急務デアル、是ガ即チ本案ヲ提出スルニ至ツタ所以デアルト云フ説明デゴザイマス、尙本案ノ要旨ニ付テ政府委員カラ説明ガゴザイマシタガ、第一ハ石油鑄業者ヲシテ資源ノ開發ヲ促進セシムルト云フコト、是ガ即チ本案ノ大目的デアルノデゴザイマス、既ニ開發ヲセシムル以上ハ、試掘助成金ト云フモノヲ與ヘルノガ至當デアル故ニ、試掘助成金ヲ命令ノ定ムル所ニ依ツテ與ヘルコトニナツテ居リマス、ソレカラシテ石油業者ニ既ニ試掘助成金ヲ與ヘル以上ハ、其ノ最後ニ目的ヲ達シテ利益ガアルヤウニナレバ、政府ニ納付金ヲ納メシメルト云フコトハ是ハ至當ノコトデアルカラ、是亦率ヲ定メテ納付金ヲ納メシムルコトニ規定サレテ居ルノデアリマス、是ハ公正ト云フ觀念カラ來テ居ルノデアル、既ニ政府カラ補助ヲ得レバ、彼等ガ利益ノアルヤウニナック時ニハ、無論納付金ヲ納メルヤウニスルノガ、公正ト云フ觀念カラ至當ノコトデアルト考ヘルト云フ政府委員ノ説明デアリマシタ、ソレカラ近接若シクハ隣接ノ鑄區ノ所有者達ガ、免角鑄脈ガ地下ニ續イテ居ルカスル農村負債整理制度ガ確立セラレタノデアリマスガ、更ニ昨年法律ノ一部改正及ビ

アルノデアル、其ノ濫掘ト云フコトハ非常ニ雙方ノ不利ニナルノデアルカラ、或ハ協議、或ハ協力シテ、此ノ濫掘ヲ防グヤウナコトニサセルト云フノガ矢張リ此ノ法案ノ一つノ目的デアルノデゴザイマス、又有望ナル鑛區ノ所有者ニハ、政府カラ命令シテ試掘サセルコトガアルノデアル、斯ウ云フ場合ニハ其ノ試掘金ノ全額ヲ助成スルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、又軍事上必要アル場合ニハ、試掘スル所ノ油ニ付テ或ハ制限ヲ命ジタリ、或ハ其ノ増加ヲ命ジナクチヤナラヌコトガアルノデアル、其ノ制限ヲ命ジマス所以ハ、油ニ依ッテハ、例ヘテ見レバ「ガソリン」ノ原油ニナルヤウナモノハ、軍事上非常ニ大切デアル、又高級機械油ノヤウナモノ是亦非常ニ大切デアルカラシテ、平時ニ於テサシタル必要ノナイ場合ニハ制限ヲ命ジ、又一朝事有ル時ハドウシテモ、例ヘバ戦争ノ如キ場合ニ於テ、増加ヲ必要トスル時ニハ増加ヲ命ズル、即チ政府ガ制限モシ、増加モ出來ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、ソレカラ質問ニスウ云フ條項ガゴザイマスガ、之ニ對シマシテ一委員カラ、此ノ規定ハ助成金ヲ受ケナイ者ニモ適用スルノデアルカ、又石油鑛業者ガ製油業モ營ンデ居ル時ニハ、此ノ製

油業ニモ此ノ第十條ガ適用スルノデアルカ  
ト云フ質問デアリマシタ、ソレニ對シマシ  
テ政府委員ハ、第一ノ質問ニ對シテハ固ヨ  
リ其ノ通リデアルガ、製油業ニ付テハ別ニ  
監督スル意思ハナイノデアル、又本案ノ目  
的ト云フモノハ、唯一般石油鑛業者ニ對シ  
テ、其ノ資源ノ開發ヲ促スト云フノガ、是  
ガ目的デアルノデアツテ、決シテ壓迫ヲ加ヘ  
ルト云フ風ナ意思ハナイノデアルト、斯ウ  
云フ御答デアリマシタ、其ノ次ハ、本條即  
チ此ノ十條ノ適用如何ニ依ツテ、或ハ弊害ガ  
ナイトモ限ラヌグラウト云フ質問デゴザリ  
マシタガ、之ニ對シマシテ政府委員ノ答辯  
ハ、決シテ運用ヲ誤ルヤウナコトハナイノ  
デアル、能ク部下ニモ命ジテ、運用ヲ誤ラ  
ナイヤウニスルト云フコトヲ確答サレタノ  
デアリマス、其ノ次ハ第八條ノ規定ハ、實際上  
適用ノ見込ガアルカト、第八條ト申シマス  
ルト「政府石油資源ノ開發促進上必要アリ  
ト認ムルトキハ石油鑛業者ニ對シ試掘又ハ  
之ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得」  
ト云フ條項ニナツテ居リマスルガ、之ニ對シ  
マシテ政府ハ、試掘ヲ進メテモ應ゼザル者  
ニハ之ヲ命ズルノデアツテ、又之ニ助成金ヲ  
與フルト云フコトハ必要デアルト思フノデ  
アル、十分ニ是ハ見込ガアルモノト考ヘル  
ト云フノガ政府委員ノ答辯デゴザイマシ  
タ、今一つハ石油地質調査ノ豫算ハドノ位  
デアルカト云フ質問デゴザイマシタガ、是  
ハ十二年度ニハ、十七萬圓、本年度ハ約三

ニシタ、其ノ次ノ第六條ト云フノガ、非常ニ大事ナ條項デゴザイマスガ、「第三條ノ規定ニ依ル納付金及前條ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス」ト云フ斯ウ云フ條項デゴザイマス、之ニ對シマシテ、質問ハ、斯クノ如キ條項ガアル以上ハ、金融業者ガ金ヲ貸スニ當ツテモ、優先權ハ政府ガ持ツテ居ルノデアルカラト云フテ、金ヲ貸スコトヲ躊躇スルヤウナ虞ハナイカト云フ質問デゴザイマシタガ、政府ハ、サウ云フ虞ハナイト思フガ、結局是ハ決シテ資源開發ヲ阻止スルヤウナアルト云フノハ、此ノ種ノ立法例ニ倣テ舉ガタニ過ギナイノデアルト云フ、斯ウ云フ虞ナ答辯デアツタト記憶致シテ居リマス、ソレカラ第三條ニ「政府ハ前條ノ試掘助成金ニ依ル試掘ノ結果開發セラレタル油田ヨリ採油ヲ爲ス者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ採油開始後五年間毎年採油價額ノ百分ノ二以内ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得」ト云フコトニナツテ居リマスルガ、之ニ對シテ其ノ内容ノ詳シイ説明ヲ一委員ヨリ求メラレマシタガ、政府ハ、是ハ唯納付金ノ率ヲ規定スルニ過ギナイノデアツテ、命令ト云フ言葉ガ此處ニアルノガ誤解ヲ招イタノデハナイカト云フ御答デアツタヤウニ記憶致シテ居リマス、今一つノ問ヒハ納付金ヲ徵

牧スルニ當ツ、鑛業者ノ利益ヲ考慮シナケ  
レバイカヌグラウ、助成金ヲ與ヘテ納付金  
ヲ取ルト云フコトニナリマシテモ、利益ノ  
ナイ場合ハ固ヨリイカヌノデアルガ、之ニ  
對シテ政府當局者ノ答辯ハ固ヨリ利益ノ有  
無ト云フノハ慎重ニ考慮シテヤル積リデア  
ルト云フ答辯デゴザリマシタ、尙地質調査  
及試掘等ニ付キマシテ、一層政府ガ努力ス  
ルヤウニト云フ希望モゴザリマシタ、又試  
掘ハ國營トシテヤッテハ如何デアルカ云フ  
風ナ質問モゴザリマシテ、又第二條ノ助成  
金ト第八條ノ助成金トノ差等ニ付テノ質問  
ガアリマシテ、之ニ對シテ政府ハ詳シク答  
ヲサレタノデ、即チ二條ノ場合ニハ實費ノ  
三分ノ二ヲ交付シ、又八條ノ場合ニハ全額ヲ  
與ヘル積リデアル、詰リ試掘費ノ全額ヲ與  
ヘル積リデアルト云フ御答デアッタノデア  
リマス、續イテ二時間半ニ瓦リマシテ、純  
祕密會ノ如キモノヲ開キマシテ、其ノ席ニ  
ハ商工大臣、燃料局長、陸海軍ノ軍務局長、  
大藏省竜ニ外務省ノ政府委員ガ出席サレマ  
シテ、燃料問題、國防、財政、外交等ニ付  
テ質問ニ應ゼラレマシテ、大體ニ於テ委員  
諸君ニ満足ヲ與ヘラレタコト信ズルノデ  
ゴザイマス、右終ツテ討論ニ入リマシタガ、  
一委員ノ申シマスルノニ、石油ハ產業上、  
國防上、重要ナル所ノ物資デアル、我ガ國  
ニ於テハ需要ハ驚クベキ數ニ達シテ居ルノ  
デアル、而モ國產ハ僅カ全需要ノ百分ノ八  
ニシキヤ過ギナイヤウナ風ナ譯デアル、石

油ノ輸入ガ今日ノ如キ有様デハ、誠ニ國際決済上、其ノ他憂フベキコトデアルガ、同時ニ石油ノ輸入ト云フモノハ絕對ニ必要デアルノデアル、内地油田ノ開發、貯留竝ニ人造石油、此ノ三ツヨリ外ハ依ルベキ方法ハナイノデアル、内地ノ油田ハ貧弱デアリ、海外ニ油田ヲ取ルト云フ風ナコトハ、今日ノ日本ト外國トノ國際關係上、是ハ不可能ノコトニ屬スルノデアル、人造石油ハ今尙幼稚ノ時代デアルノデアル、觀ジ來レバ誠ニ燃料ノ前途憂慮ニ堪ヘナイト思フ、又最モ大切デアル所ノ石油資源ノ一ツデアル樺太ノ如キハドウデアルカ、常ニ「ロシア」ノ壓迫等ヲ受ケテ居ルヤウナ風ナ譯デアル、願クバ適當ナル外交工作ニ依リ、又指導ニ依テ北樺太ノ問題モ能ク留意フシテ、サウシテ「ソ」聯政府ノ不條理ナル壓迫ヲ除去スルヤウニシナクツヤイカスト云フ議論デアリマシテ、要スルニ石油ハ國家ノ血液デアルカラ、大イニ贊成ヲスルト云フ贊成論デアリマシタ、其ノ次ニ又一委員ガ贊成論ヲ述ベラレマシタガ、法案ハ現下ノ重大ナル時局ニ鑑ミテ重要ナルモノデアルト云フコトハ贊言ヲ要シナインデアル、七十二ノ議大ナル法案デアルガ故ニ贊成ヲスルト云フ會ニ於テ本院ガ建議案ヲ出シタガ、政府ハ願クバ此ノ趣意ヲ體シテ一層熱心ニ石油資源ノ開發ニ努メラレムコトヲ希望スル、重二ツノ贊成演説ガゴザリマシテ、サウシテ採決ニ入リマシタガ、全會一致デ以テ決定

致シタ次第アゴザイマス、右御報告申上ゲ  
マス

其ノ有望ナルコトヲ突キ止メタル場合ニハ、  
政府自ラ手ヲ下スカ、或ハ石油業者ヲ懲罰  
シテ其ノ事業ヲ遂行セシムルカ、此ノ地下  
ノ寶庫ヲ開發ニ導クノ運用ヲ講ズルコトガ、  
此ノ法案ノ效果ヲ全ウスル所以デアルト思  
フノデアリマス、或ハ又其ノ重要性ニ顧ミ  
マシテ、將來ハ之ヲ國營トスルト云フ如キ  
コトモ、考慮サルベキデアラウト思フノデ  
アリマス、尙此ノ法案ノ特色ト致シマシテ、  
一面ニ於テハ斯カル拔穴トモ云フベキモノ  
ヲ持チナガラ、他面ニ於キマシテハ納付金  
ノ規程ノ如キ、右ノ手デ與ヘナガラ左ノ手  
デ之ヲ取り上ゲル如キ、如何ニモ齶齶タル  
所ノ條項、或ハ業者ノ業務ニ立入りテ、業  
務及財産ニ關スル報告、其ノ他帳簿及物件  
ノ検査、而シテ之ニ違反スルモノニ對シマ  
シテハ嚴シキ制裁等ノ存在スルコトハ、却  
テ業務者ヲシテ萎縮セシムルノ虞ナキカト  
云フ說ヲナス者モアリマスガ、今ハ一應之  
ニ言及スルノ煩ヲ避ケタイト思ウテ居マ  
ス、ソコデ此ノ法案ノ對象ト致シマテ、離ル  
ルコト能ハザル所ノ資源開發豫算、所謂五  
箇年計畫ニ付テ簡單ニ言及シテ見タイト思  
フノデアリマス、過般豫算委員會ニ於キマ  
シテ私ハ商相ニ對シテ、一體此ノ五箇年計  
畫、即チ昭和十三年度分、所謂其ノ露頭ト  
シテ百七十餘萬圓ト云フモノ方計上サレテ  
居ルノデアリマスルガ、之ニ依シテ幾何ノ石  
油ノ資源ヲ得ラル、御見込デアリマスカト  
御尋ネ致シマシタ處ガ、商相ハ石油ハ地下

ノ埋藏物デアルカラ、之ヲ既往ノ例ヲ以テ  
律スルコトモ出來ス、正直ノ處幾何出ルカ、  
全ク見込ガ立タヌ、斯ウ云フ意味ノ御答ニ  
對シマシテハ、私ハ少カラズ意外ノ感ニ打  
タレタノデアリマス、如何トナレバ既ニ政  
府トシテ燃料國策ニ乗出サレタ以上ハ、是  
ダケノ計畫ヲ立テレバ、是ダケノ石油量ヲ  
得ル見込デアルト云フ位ノコトハ、御研究  
ガナケレバナラス管デアリマス、ソレデナ  
ケレバ全然國策ノ立テヤウガナイデハアリ  
マセヌカ、我々微弱ナル所ノ研究會ニ於キ  
マシテモ、此ノ點ニ付キマシテハ非常ニ苦  
心ヲ拂ヒマシテ、研究ニ研究ヲ重ネマシタ  
結果、曩ニ當局ニ向ツテ建議致シマシタ所  
ノ案ニハ、其ノ得タル所ノ見込ヲ以チマシ  
テ、之ヲ基礎ト致シテ將來ノ需要供給ノ關  
係ヲ計算ヲ立テタヤウナ次第デアリマス、  
況ヤ政府當局ノ如キ堂々タル調查機關ヲ御  
持チニナッテ居ラレルノニ、其ノ見込サヘ立  
タスト云フガ如キハ、是ハアリ得ナイコト  
デアルト信ズルノデアリマス、或ハ成ル程  
ソレモ御尤ナコトデアル、致シ方ノナイコ  
トデアルト致シマシテモ、茲ニ私ノ見逃シ  
難イ所ノコトハ、政府當局ハ今次ノ議會ニ  
於キマシテモ屢々ノ機會ニ於キマシテ、其ノ  
言明スル所ニ依リマスルト、今日ヨリ五箇  
年ノ後ニハ人造石油、天然石油、是等ノ生  
産ヲ含セマスレバ、一般需用ノ半分ヲ充タ  
スニ足ル見込デアル、斯様ニ言明サレテ居  
ルノデアリマス、勿論此ノ中ニ石油ノ大消

費者デアル海軍ノ分ハ入ツテ居ラヌト思フ  
ノデアリマス、若シ果シテ然リト致シマス  
ルナラバ、將來石油資源ノ増産量ニ對シテ、  
政府當局ニ於テモ相當ナ確信ヲ持ツテ居ラ  
云フ、斯様ナ言明ハ出來ナイ筈デアルト思  
フノデアリマス、茲ニ於キマシテ曩ニ豫算  
會ニ於ケル商相ノ言明ノ如ク、今後ノ天然  
石油資源、是ハ見込ノ立ツコトガ出來ナイ  
ト言ハレタコトガ、眞デアルカ、或ハ五  
箇年後ニハ需用ノ半分ヲ満タスニ足ルト  
云フ見込ガ嘘カ、二者其ノ一二居ラネバ  
ナラヌト云フコトニナルノデアリマス、併  
シ此ノ點ハ此ノ邊ニ止メテ置キマシテ、  
是ヨリ少シク資源開發五箇年計畫及人造石  
油問題ニ付テ簡單ニ指摘シテ見タイト思フ  
ノデアリマス、既ニ過般此ノ演壇上ヨリ申  
上ゲタ如ク、今次提出ニ係ル所ノ五箇年計  
畫、即チ其ノ總額ニ於キマシテハ僅々千二  
三百萬圓ノ端シタ金ヲ以テ致シマシテハ、  
人造石油ノ片棒トシテ燃料國策ヲ擔グコト  
ナドハ思ヒモ寄ラヌコトデアルト思フノデ  
アリマス、假ニ最モ好適ナ「チヤンス」ヲ擱ミ  
得タト致シマシテモ、現在國內產額ノ三倍  
以上ニモ當リマス所ノ百萬「トン」ヲ超ユル  
コトノ至難デアルコトハ請合デアリマス、縱  
シソレガ更ニ無類飛切ノ「チヤンス」ヲ擱ミ  
得タト致シマシテモ、百五十萬「トン」ニ飛

上ルヤウナ夢ヲ見タト致シマシテモ、マダソ  
レデハ將來此ノ五箇年間ニ、極メテ内輪ニ  
ル勘定デアリマス、スクノ如クニシテ、現  
在ノ貧弱ナル計畫ヲ以テ致シマシテハ、將  
來所要ノ數量ノ石油ヲ得ルコトハ極メテ望  
ミ少キコトニ反シマシテ、皮肉ニモ、一方  
日ニ月ニ加速度ヲ以テ遞増スル所ノ需用量  
ノ方ハ、太鼓判ヲ捺スヨリモ確實性ヲ有ス  
ルモノデアリマス、即チ石油ノ出ル方ハ分  
ラナイガ、要ル方ハ確カデアル、茲ニ計畫  
ノ不安性ト云フモノガ益、明白ニナッテ來ル  
ノデアリマス、翻ツテ人造石油ノ方ハ、是ハ  
造レバ出來ルト云フ確實性ヲ有スルモノデ  
アリマスカラ、縱令採算上ノ割ニ合ハヌコ  
トアリト致シマシテモ、今日ノ場合須ク其  
ノ完成期ヲ短縮スルハ勿論、宜シク之ニ追  
騒ケマシテ第二次計畫ニ進ムベキデアルト  
思フノデアリマス、ト申シマスルノハ、此ノ  
人造石油ノ完成期ハ昭和十七年度末ニ瓦リ  
マスノデ、斯カル所ノ誠ニマダルコイコト  
ヲ救ハズト云フ譬ニ洩レル能ハザルモノア  
ルノミナラズ、ソレ迄ノ製造量ハ、揮發油、  
重油、各百萬「キロリットル」デハ、今日ヨ  
リ其ノ時期迄ニ自然ニ遞増スル所ノ分量ヲ  
「カヴァー」スルニ過ギナイト云フヤウナ、甚

ダ心細イ狀態デアルノデアリマス、ノミナ  
ラズ、此ノ方法ハ我ガ國ニ於キマシテハ最  
初ノ試ミデアリ、之ヲ「ドイツ」アタリノ成  
功致シマシタル迄ノ過程ニ鑑ミマシテモ、  
ハ豫想セネバナラヌト思フノデアリマス、  
且其ノ運營ノ中権機關デアル所ノ帝燃會社、  
即チ帝國燃料株式會社ノ如キハ、其ノ本來  
ハ投資機關ノ立場ニ在ルノデアリマスカラ、  
恐ラク自ラ工場ヲ持チ、自ラ人造石油ノ製  
造ニ手ヲ染ムルト云フヤウナコトデハナ  
ク、内地、外地、朝鮮、滿洲等ニ於ケル此  
ノ種ノ企業ニ從事セムトスル所ノ者ニ向シ  
テ、其ノ資金ヲ融通スルコトニ依ツテ、其ノ  
目的ヲ達成スルト云フコトデアラウト思フ  
ノデアリマス、果シテ然ラバソレガウマク  
ノ際、之ニ要スル所ノ經費ノ如キ、此ノ非  
常時局ニ直面シテ、其ノ價值ハ兵器彈藥  
モノデアルト思フノデアリマス、サレバ此  
デアリマス、サレバ當局タル者ハ、此ノ際  
大悟一番、宜シク裝束ヲ改メテ出直スベキ  
モノデアルト思フノデアリマス、サレバ此  
ノ際、之ニ要スル所ノ經費ノ如キ、此ノ非  
常時局ニ直面シテ、其ノ價值ハ兵器彈藥  
否ソレ以上大切デアル所ノ液體燃料ヲ、國  
外資源ノ依存カラ免レムトシマスルニハ、  
一億、二億圓ハ物ノ數トモ思ハレス、其ノ  
認識ト氣魄ヲ以テ之ニ臨マネバナラヌト信  
ズルノデアリマス、況シテ之ニ依ツテ年々三  
億カラノ金貨ノ流出ヲ阻止シ得ベシト致シ  
マシタナラバ、國家財政上ノ觀點ヨリ致シ  
マシテ、何等悖ル所ナキノミナラズ、或ハ  
一石二鳥ニ値スルモノト思ハル、ノデアリ  
マス、當局側ハ勤モスレバ屢々ノ機會ニ於テ、  
サウ澤山豫算ヲ取ツテモ、人モナケレバ物モ

乏シイカラ、豫算ヲ使ヒコナスコトガ出來

ナイト云フガ如キ意味ヲ、ソレトナク漏ラ

サレルヤウデアリマスガ、ソレハ一種ノ「カ

ムフラード」トシテハ極メテ巧妙ナル御言

葉アルカモ知レマセヌガ、私ハ之ニ對シ

テハ、夫レ然リ豈夫レ然ランヤト、斯様ニ

申シタインデアリマス、成ル程今日迄多年

其ノ準備ヲ怠リ、其ノ結果ト致シマシテハ、

事柄ニ依リマシテハ當局側ノ申サレルヤウ

ナコトモ絶無トハ申サレスデアラウト思フ

ノデアリマスガ、併シナガラ私ハソレヲ無

條件ニ其ノ通リデアルト、斯様ニ受取ル譯

ニハ參ラヌノデアリマス、成ル程明日カラ

直グニ取り掛レト申シマシタカラトテ、品

物ニ依ツテハ困難ノコトモアラウカト思ヒ

マスガ、併シナガラ第一ニ此ノ間五箇年ト

云フ餘裕ガ存シテ居ルノデアリマス、此ノ

期間中ニハ優ニ人モ物モ準備ガ出來ル筈デ

アリマス、我ガ國ガ石油開發事業ニ關係致

シマシテ以來既ニ約四十餘年、此ノ間ニ養

成サレタ所ノ熟練職工、工夫等、今ニ國內ニ

散在シテ居ル數ハ少カラザルコトト思フノ

デアリマス、國家必要ノ前ニ之ヲ勤員スル

コトハ左程ノ困難デハナイ思フノデアリ

マス、又物ト致シマシテモ、今日我ガ國工

業ノ發達ノ程度ニ鑑ミマスレバ、其ノ時期

迄ニ間ニ合ハセル必ズシモ不可能デハナイ

ト思フノデアリマス、殊ニ差當リ入用ノ鐵

管ノ如キハ、今日既ニ廢坑ニ歸シタルモノ

ヲ之ヲ動員致シマスレバ急場ノ間ニ合フコ

トハ必ズシモ不可能デナイト思フノデアリ

マス、サレバ此ノ人ト物ト云フ點ニ付キマ

シテハ、私ハ人ト物ノ足ラザルコトヲ憂ヘ

ラザルコトヲ憂フル者デアリマス、又是等

ノ人ト物、今迄申シマシタ問題ノ外ニ於キ

マシテ、第二ニハ石油資源開發ニ對シテハ、

豫算ハ多々益、辨ズルノデアリマス、今日ノ

場合最モ手ッ取り早ク石油資源ヲ得ヨウト

致シマスレバ、先ヅ以テ掘レバ必ず出ル見

込ガアルト云フ北樺太ノ油田開發ヲ促進ス

ルニ若クモノハナイト考ヘルノデアリマス、

昨今此ノ事業ノ開發ニ對シテ、所謂輸血問

題ガ起ツテ居ルヤウデアリマスガ、此ノ方面

ノ企業ニ向ツテ輸血致シマスルコトハ、是レ

取りモ直サズ我ガ國民全體ノ罹ツテ居ル所

ノ石油貧血ノ重症ヲ救フ所以デアリマス、

其ノ他幾ラ豫算ガ有リ餘ツテモ、此ノ十餘年

以上立後レテ居ル所ノ燃料國策樹立ニ向ツ

テハ、御困リドコロカ、幾ラアツテモ尙且不

足ヲ感ゼラレテ居ルコトハ、一番當局ガ能

得ナイノデアリマス、之ニ由ツテ之ヲ觀マン

テモ、私ハ吉野商相ガ眞ニ意義アリ、經緯

アル劃期的燃料國策案ヲ、最モ近キ將來ニ

於テ之ヲ議會ニ提出サレ、其ノ言責ヲ完ウ

セラル、ノ日アルベキヲ確信致シマシテ、

アル劃期的燃料國策案ヲ、最モ近キ將來ニ

於テ之ヲ議會ニ提出サレ、其ノ言責ヲ完ウ

セムト欲スルモノデアリマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 別ニ御發言モナ

ケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二

讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認

メマス

ルノデアリマス、全ク御說ノ通リデアリマス、サウ云フ風ニ懸命ニ努力スル積リデアリマス、又私ハ是迄商相ノ御口ヲ通シテ、此

ノ計畫ヲ以テシテハ未ダ十分ナリトハ考ヘリマス、又私ハ是迄商相ノ御口ヲ通シテ、此

リマス、トス様ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、又私ハ是迄商相ノ御口ヲ通シテ、此

ノ計畫ヲ以テシテハ未ダ十分ナリトハ考ヘリマス、又私ハ是迄商相ノ御口ヲ通シテ、此

リマス、トス様ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、又私ハ是迄商相ノ御口ヲ通シテ、此

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認

メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀

會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵梅園篤彦君 賛成

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ動

議ニ付テハ多年御精通ノ商相ハ、此ノ時局

ニ際シ何物ヨリモ大切デアル石油資源開發

ニ對シテ、左様ニ考察サレルコトハ理ノ當

然デアリ、又閣臣トシテ此ノ問題解決ノ重

責ニ居ラレルコトニ鑑ミラレマシテ、斯

カル言明ニ出デラレタルコトハ、應サニ斯

クアラネバナラヌト云フコトヲ信ズルノデ

アリマス、私ハ既ニ過般商相ヨリ、今後ハ

リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ」

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 次會ノ議事日程  
ハ決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、  
本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十一時四十分散會

